



Title	デンマーク語の-en動詞的名詞とケンタウロス名詞句
Author(s)	新谷, 俊裕
Citation	IDUN ー北欧研究ー. 2005, 16, p. 75-124
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95587
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

デンマーク語の -en 動詞的名詞とケンタウロス名詞句

新谷 俊裕

1. はじめに

- 1) - Du ikke li' din mad¹, spurgte han på svensk med en tydelig fransk accent. - Det har jeg ingen ide om, da jeg endnu efter 5 *kvarters* venten ikke har fået noget mad, svarede jeg ... (Korpus 2000)² [イタリックと下線は本稿の筆者による。以下同様.]

〈あなたはあなたの食事がきらいですか、と彼はすぐにそれとわかるフランス語なまりのスウェーデン語で訊ねた。好きかきらいか、私は1時間15分待った後もまだ食事を出してもらっていなかったの、何とも言いようがないと答えた…。〉

- 2) Det var næsten ikke til at tro, at vi efter så *mange års søgen* langt om længe fandt Marie. (Korpus 2000)

〈私たちがあれほどの年月をかけて探した末にやっとのことで Marie を見つけたことはほとんど信じられない。〉

- 3) Derfor anbefaler han blandt andet, at man undgår *længere tids ståen eller sidde*en, fordi blodet får svært ved at returnere til hjertet på grund af det. (Korpus 90)

〈それゆえ彼は特に、比較的長時間立っていることや座っていることを避けるよう勧めている。血がそのために心臓に戻るのが困難になるので。〉

上の例文 (1)-(3) の中のイタリック体の中で下線を付した語は動詞の語幹に -en を付加して派生させたものであり、左側に修飾語を置くことができる一種の名詞である。この -en 動詞的名詞は -(n)ing, -else (稀に -sel), -eri などの他の動詞的名詞と比べて、見聞きすることが非常に稀であるという印象があるほか、右側に方向の副詞や前置詞句といった副詞的語句や目的語や補語などを伴うことがあるという点で、他の動詞的名詞とは根本的に異なる特徴をもっている。

- 4) Der lyder *en piften* ud mod dem. (Korpus 90) [↔ han pifter ud mod dem]³

〈彼ら [= 犬たち] に向かって指笛を鳴らす音がする。〉

- 5) *byboers ofte temmelig ufølsomme masen* på og *trængen* sig ind (Korpus 90)

[↔ byboer maser ofte temmelig ufølsomt på og trænger sig ind]

〈町の住人たちがしばしばかなり無神経に強引に押し込み、押し入ること〉

- 6) Jeg bryder mig ikke om at høre *Peders refereren* til, hvad han og Danne har fundet ud af gennem deres studeren. (Korpus 90) [↔ Peder refererer til, hvad han og ...]
 <私は、Peder が彼と Danne が自分たちの調べることを通して見いだした事に言及することを聞くのを好ましく思わない。>
- 7) *hans ivrige ringen* med dørklokken (Korpus 2000) [↔ han ringer ivrigt med dørklokken]
 <彼が熱心にドアベルを鳴らすこと>
- 8) *farens rusken* i dørhåndtaget (Korpus 90) [↔ faren rusker i dørhåndtaget]
 <父親がドアノブを力いっぱい引っ張ること>
- 9) *komponistens pillen* ordene fra hinanden (Korpus 2000) [↔ komponisten piller ordene fra hinanden]
 <その作曲家が言葉をバラバラにしてしまうこと>
- 10) *den bevidstes sætten* næsen i sky (Korpus 90) [↔ den bevidste sætter næsen i sky]
 <自信ある者が高慢ちきであること>
- 11) Den udspringer af en *rækken* på skrømt efter ting der er for langt væk. [↔ barnet rækker på skrømt efter ting der er for langt væk]
 <それ[=子供が指さすこと]の発端は、遠くにあるものを手を伸ばして取るふりをするにある。>
- 12) Så, efter kaffen og det bløde brød og min *synken* dybere og dybere ind i følelsen af at her i grunden var ganske trygt og lunt og at jeg måske i virkeligheden ville få det langt rarere hvis jeg konverterede til et medlem af familien, begyndte min fortvivlede *leden* efter alle mine stærkt decimerede ejendele. (Korpus 90) [↔ jeg synker dybere og dybere ind i følelsen af at ...] [↔ jeg leder fortvivlet efter alle mine stærkt decimerede ejendele]
 <それで、コーヒーと軟らかいパンを食べ、ここは本当はまったく安心のできる温かいところであり、私がもしも家族の一員に転向するならばひょっとしたら実際にはずっと居心地が良くなるであろうという感覚に私がますます深くひたっていった後に、大幅に減少した全ての私の所有物を求める私の絶望的な探求が始まった。>
- 13) Denne konflikt mellem det internationale og *væren* sig selv nok gælder også for Rusland. (Korpus 2000) [↔ landet er sig selv nok]
 <国際的なことと自給自足のできることとの間のこの衝突はロシアにも当てはまる。>

上の例文 (4)-(13) から分かるように、-en 動詞的名詞は、左側には限定語や修飾語を伴うという名詞的な特徴を示し、右側には副詞的の語句や目的語や補語など

を伴うという動詞的特徴を示す構造の名詞的語句を形成することが可能である。この名詞的語句は、上半身が人間で、下半身が獣であるギリシア神話のケンタウロスに譬えて、ケンタウロス名詞的語句 (kentauernominaler) と呼ばれている。⁴ ところで名詞的語句とは名詞句が文中で名詞的な文構成素として機能する場合の名称であるが、本稿では当該の名詞的語句を文とは切り離して議論することがあるのでケンタウロス名詞句 (kentauernominalfraser) という名称を用いることにする。

-en 動詞的名詞は、前述したように、その使用自体が非常に稀である印象を受けるが、使用される場合には børnenes evindelige råben 〈子供たちが絶えず叫ぶこと〉のように限定語や形容詞などの修飾語を持つ左側の名詞的特徴だけを備えた表現として使用されることが多く、右側の動詞的特徴をも備えた表現の使用は非常に稀であるという印象を受ける。実際、Wiwel (1901: 150, fodnote (1)) も -en 動詞的名詞の右側の動詞的特徴を備えた表現の使用は現実には稀であるとしている。

ところで -(n)ing, -else (稀に -sel), -eri などの動詞的名詞はすべての動詞から作ることができるわけではないが、-en 動詞的名詞の場合はいったいどうなのだろうか。この点に関しては Aage Hansen (1967) にも Wiwel (1901) にも言及はないが、Karker (1992: 83, 1996: 72) はすべての動詞から -en 動詞的名詞を作ることができるとしている。一方で、ODS⁵ (bd.1: XXXIII) や Diderichsen (1976 (1946): 81) はほとんどの動詞から作ることができるとしている。

(ほとんど)すべての動詞から -en 動詞的名詞を作ることが可能であるということは、しかしながら、-en 動詞的名詞の使用頻度が低いために、外国人である筆者には実感できるものではない。そこで筆者はデンマーク語のコーパス (Korpus 2000 および Korpus 90) を用いて、基本動詞約 2100 語⁶ に関して -en 動詞的名詞の出現数を検索し、-en 動詞的名詞の使用を概観してみた。その結果は、-en 動詞的名詞の使用が見られる動詞に関しては、-en 動詞的名詞の出現数を不定詞形の出現数とともに本稿末の Appendix 1 「Korpus 2000 および Korpus 90 における -en 動詞的名詞の出現数」でリストアップした。この際に不定詞形の出現数をも示したのは当該の動詞自体の使用頻度の参考にするためである。このリストを見て分かることは、今回調査対象とした約 2100 語の動詞のうち、-en 動詞的名詞の出現が確認されたのは約 630 語についてであり、sige (出現数: -en 動詞的名詞 5, 不定詞形 33356) や tage (出現数: -en 動詞的名詞 3, 不定詞形 30004) のように、動詞そのものの使用頻度が高くても -en 動詞的名詞の出現数は必ずしも多くないということである。一方、Appendix 2 「コーパスにおける -en 動詞的名詞の出現数トップ 40」から分かるように、擬音語の summe, suse, brumme, bruse, rasle などや声や音に関係した hviske, stønne, mumle, råbe, fnise, skrige, hyle などは、動詞そのものの使用頻度はあまり高くないにもかかわらず、-en 動詞的名詞の出現数が多

いことが特徴的である。また、基本動詞であり、使用頻度も高いはずの動詞の中には *blive*, *bo*, *bringe*, *bære*, *eje*, *finde*, *flyve*, *fylde*, *gide*, *glemme*, *have*, *hente*, *kende*, *ligge*, *regne*, *ryge*, *røre*, *sende*, *sne*, *spise*, *tro*, *vaske* などのように -en 動詞的名詞の出現数が皆無のものもあった。もっとも、これらの動詞の -en 動詞的名詞はたまたまコーパスに現れていないだけかも知れないが、それにしても、これらの動詞の -en 動詞的名詞の出現数はもっと多数見られても良いのではないだろうか。このように見てくると、-en 動詞的名詞が（ほとんど）すべての動詞から派生されるというのは事実ではないのではないかと疑われてくる。

実際これまでに Møller (1945: 24) も異議を唱えて、次のような場合には -en 動詞的名詞は作られない、あるいは非常に稀にしか作られないとしている：

- (i) 前綴り *an-*, *be-*, *for-* などを持つ動詞：*andrage*, *-gaa*, *-komme*, *-mærke*, *-rette*, *-se*; *bebo*, *-bygge*, *-byrde*, *-drage*, *-døve*, *-daare*, *-frygte*, *-fri*, *-hage*, *-høve*; *forbavse*, *-bryde*, *-drage*, *-ene*, *-ny* osv.
- (ii) 異態動詞⁷ (*deponente verber*)：*flokkes*, *kaldes*, *synes*, *tækkes* osv.
- (iii) *ane*, *døje*, *gavne*, *hedde*, *kende*, *savne* などの他の動詞。

しかし、これら 3 つの場合になぜ -en 動詞的名詞が作られないのかという説明は Møller (1945) には見られない。(i) の前綴りを持つ動詞に関しては、Korpus 2000 と Korpus 90 で検索した今回の調査の結果、Appendix 1 から分かるように、*forgåen*, *forholden*, *forladen*, *fortællen* などは出現数がそれほど少ないとは言えないが存在している。このように Møller の説明もヒントは与えてくれるものの十分満足のいくものとは言えない。

このように -en 動詞的名詞およびケンタウロス名詞句の使用が稀なためであろうか、これらは、Herslund (2002: 77-78) が英語による外国人研究者向けの記述文法書で言及するまでは、外国人向けのデンマーク語文法書ではこれまで扱われたことがなかった。そればかりか、Hansen & Heltoft (1994) が本格的な記述を行なうまでは、デンマーク本国における文法研究の歴史においてすらほとんど扱われることがなかった (cf. Hansen & Heltoft 1994: 57, Herslund 2002: 77).⁸ この Hansen & Heltoft (1994) は -en 動詞的名詞およびケンタウロス名詞句について様々な角度から簡潔かつ明快な説明を提示しており、これを読めば、-en 動詞的名詞がすべての動詞から作られるわけではないということが理解できる。

上記 Herslund (2002: 77-78) は、-en 動詞的名詞およびケンタウロス名詞句について Hansen & Heltoft (1994) をベースにして非常に簡単に（3分の2ページほどの紙面で）英語で説明しているが、この文法書は一般のデンマーク語学習者向けではなく、研究者向けなので、大方の目に触れる機会は少ないであろう。Hansen & Heltoft (1994) に至ってはなおさらである。

本稿は、日本語ではこれまで知ることのできなかったデンマーク語の *-en* 動詞的名詞およびケンタウロス名詞句について Hansen & Heltoft (1994) の記述を紹介することを目的とする。また、Hansen & Heltoft (1994) はコンパクトに (11 ページで) まとめているために、もう少し説明が望まれる箇所があったり、言及し忘れていると思われる点や少し異議を唱えたい点などがあり、これらの点について本稿では追加・修正を試みる。

2. 形態

Hansen & Heltoft (1994: 57) によると、ケンタウロス名詞句は非常に生産的で、常に新しいものが造られているが、*-en* 動詞的名詞⁹ は特殊な場合にしか辞書に登録されないと言う。実際、正書法辞典の RO に登録されている動詞語幹を含む *-en* に終わる名詞 18 個のうち、¹⁰ *-en* 動詞的名詞の可能性のある *bæven* と *visnen* の 2 語以外は *-en* 動詞的名詞ではないようである。¹¹ 一方、コーパスで検索対象にした動詞 2100 語のうち、デンマーク語 - 英語大辞典の DES では 300 強のものに *-en* 名詞としてそれらの見出し語が掲載されており、Korpus 2000 と Korpus 90 では 20 強のものが *-en* 名詞として明示されている。

2.1. *-en* 動詞的名詞の形態

Hansen & Heltoft (1994: 58) は、ケンタウロス [*-en* 動詞的名詞のことを言っている：筆者] は屈折に関しては次のようであると言う。すなわち、

- (i) 数に関する屈折変化がなく、基本形 (defaultform) としての単数形しかない。したがって、数詞や数量形容詞 (*mængdeadjektiver*) などの数量を示すことば (*tæller*) とは結びつかない。
- (ii) 所有格形がなく、その機能もない。
- (iii) 既知形がない。

したがって、*-en* 動詞的名詞は動詞語幹から形成された名詞であるとはいえ、名詞のいかなる形態変化も見せないと言う。また、次のように言う。

- (iv) 異態動詞 (*deponente verber*) からは *-en* 動詞的名詞は形成されない。
- (v) *-en* 動詞的名詞は共性名詞扱いとなり、限定する冠詞や修飾する形容詞等は共性名詞に対応したものとなる。

(i) に関して、数量形容詞 (*mængdeadjektiver*) には *megen*, *en del*, *en masse* も含まれると思われるが、下の例文のようにこれらによって修飾される *-en* 動詞的名詞はいくつも見られる。したがって Hansen & Heltoft は *flere* や *mange* など、数を数える形容詞のみを指しているのであろう。

- 14) *den megen snakken sort* (Hansen & Heltoft 1994: 57)

〈その意味不明のたわごとをよく言うこと〉

- 15) *Det skete under megen fnisen* og stor støj, ... (Korpus 90)

〈それはクスクスとよく笑って大きな音をたてながら行なわれた。〉

- 16) *Violet sov uregelmæssigt - med ordet “uregelmæssigt” mener jeg her ‘med en masse venden og drejen sig rundt’ - på den bulede seng ...* (Korpus 2000)

〈Violet はでこぼこしたベッドで不規則に眠った — 「不規則に」とは「よく寝返りを打って」という意味である。〉

- 17) *der er en del gåen frem og tilbage mellem borde og telefonbokse* (Korpus 90)

〈テーブルと電話ボックスの間がしきりに行き来される〉

これら *megen*, *en masse*, *en del* は -en 動詞的名詞を単数の抽象名詞のように修飾していることが分かるが、興味深いことに「意味不明のたわごとを言う」こと、「寝返りをする」ことや「テーブルと電話ボックスの間を行き来する」ことは複数回起こっているのである。デンマーク語 - 英語大辞典の DES に登録されている -en 動詞的名詞の中には次のようなものがあり、用例とその英語訳があるが、英訳の英語の動名詞には複数形を示す語尾 -s が見られ、動名詞の示す行為が複数回起こることが分かる。

hans flakken om his wanderings

hans kommen og gåen his comings and goings

hans gøren og laden his doings, his actions

次に上記の (ii) の所有格形がないという記述は修正されるべきだと思われる。というのは、Wiwel (1901: 150, fodnote (1)) が、実際には稀にしか現れないとはいふものの、*«det er også den snakkens skyld»* 〈それもそのお喋りのせいである〉のように名詞の s-形、すなわち所有格形を作ることができると言っているし、¹² Mikkelsen (1975 (1911): 394) も、-en 動詞的名詞の右側に来るケンタウロス名詞句の動詞的要素が付かなければ -en 動詞的名詞は所有格形にすることができる¹³ として、次の例を挙げている。

denne sværmens vedvaren 〈この放心していることが続くこと〉

for denne meningsløse regerens skyld 〈この無意味に支配することのために〉

また筆者もコーパスから、わずかではあるが、次の例を挙げることができる。

- 18) *at lide og at miste blev al vor levens* sum (Korpus 2000)

〈わずらうことと失うことは我々が生きていることすべての総体となった〉

- 19) *Du er min gud og skaber af alle guder, som du har formet af åndens skønhed i din søgens* arbejde og kamp! (Korpus 90)

〈あなたは私の神であり、あなたがあなたの探求することの努力と闘いの中

で魂の美から創られたあらゆる神の創造主である。〉

20) Således fortæller sproget ud over *den filosoferende tænkens grænser*, og eventuelt om disse grænser. (Korpus 90)

〈このように言語は哲学的に思考することのもろもろの境界を越えて語り、場合によってはこれらの境界について語る。〉

以上のことから、-en 動詞的名詞には非常に稀ではあるが、所有格形があると修正されなければならないであろう。しかし、Mikkelsen (1975 (1911): 394) も述べているように、-en 動詞的名詞が所有格形になっている場合には動詞の特徴が出る右側の部分、すなわち目的語や補語や副詞的語句を伴うことがないのであるから、-en 動詞的名詞の形成する名詞句はもはやケンタウロス名詞句とは呼べないであろう。

次に上記 (iv) の異態動詞 (deponente verber) からは -en 動詞的名詞は形成されないということは、§1 でも見たように、Møller (1945: 24) も言及している。しかし、-en 動詞的名詞が形成されないのは、Wiwel (1901: 150, fodnote (1)) も言っているように、異態動詞だけではなくて、受動態を表す s-形動詞、すなわち s-受動態形にも当てはまること¹⁴ ではないだろうか。また、受動態の話になったので、付け加えておくと、[blive+過去分詞] で表す blive-受動態形もまた -en 動詞的名詞にはならない、つまり [bliven+過去分詞] の構造は存在しないように思える。というのも今回のコーパスを用いた調査では blive の -en 動詞的名詞は見つからなかったからである。つまり [bliven+過去分詞] の用例も見つからなかったわけであるが、だからと言って断言はできないものの、やはり blive-受動態形の -en 動詞的名詞は不可能ではないかと推測されよう。

3. ケンタウロス名詞句の構造 — 統語論

Erik Hansen (1978 (1977): 74) はケンタウロス名詞句を、前の部分が名詞的特徴を示す下位要素 (adled) で後ろの部分全体が中核要素 (kerneled) となっている名詞的従位統合体 (nominalhypotagmer) であるとし、中核要素の内部構造は従位節や不定詞句の構造に類似しているとして、下の表を示している。

<i>forbinder</i> (接続詞的語句)	<i>adled</i> (下位要素)		<i>kerne</i> (中核要素)			
	best.	beskr.	v	V	N	A
<i>og med</i>	<i>hans</i>	<i>evindelige</i>	<i>villen</i>	<i>hævde</i>	<i>sig</i>	<i>i flokken</i>
- -	<i>denne</i>	-	<i>rejsen</i>	-		<i>frem og tilbage</i>
<i>eller</i>	<i>en</i>	<i>usympatisk</i>	<i>masen</i>	-	<i>sig</i>	<i>på</i>
- -	<i>deres</i>	<i>uforståelige</i>	<i>given</i>	-	<i>de andre</i>	<i>altid</i>
					<i>ret</i>	

なお上表中の例文の意味は次のようである。

- 〈そして彼が集団の中で常に目立とうとすることによって〉
- 〈この行き来すること〉
- 〈あるいは共感の持てない、押し付けがましくすること〉
- 〈彼らが、理解できないことに、他の者たちがいつでも正しいとすること〉

Hansen & Heltoft (1994: 58) はさらに次のような表も示し、-en 動詞的名詞の上に N/V と記し、-en 動詞的名詞は左側が名詞的特徴を持ち、右側が動詞的特徴を持つと説明する。

ART	ADJ	N/V	O _d	Mådesadv.	Prædikativ	O _p
deres		plagen				om saftevand
hans		sætten	sig		på den høje hest	
den	megen	snakken		sort		
hendes	irriterende	blanden	tingene		sammen	
denne	evige	bliven			forkølet	

なお上表中の例文の意味は次のようである。

- 〈彼らがジュースをねだること〉
- 〈彼が威張りくさること〉
- 〈そのわけのわからないことをよく言うこと〉
- 〈彼女が、腹立たしいことに、物事を混同すること〉
- 〈この絶えず風邪をひくこと〉

3.1. ケンタウロス名詞句の名詞的部分の構造

しかし Hansen & Heltoft (1994: 59) はケンタウロス名詞句が従位節や不定詞句と類似した構造を持つとしながらも、-en 動詞的名詞の左側に来る部分は純粋に名詞的であり、そのため、従位節や不定詞句では動詞的語句の左側に文副詞的語句¹⁵を置く場所があるのに対して、ケンタウロス名詞句では -en 動詞的名詞の左側には文副詞的語句を置く場所はないとしている。

21) hans (*altid) / (evindelige) kommen med undskyldninger

〈彼が絶えず言い訳をすること〉

22) denne (*ikke) / (manglende) tagen hensyn

〈このおもいやりのないこと〉

つまり従位節や不定詞句では文副詞的語句が置かれるところであるが、ケンタウロス名詞句では文副詞の代わりに、類似の意味を有する形容詞が置かれるということである。

hans evindelige kommen med undskyldninger



at han **altid** kommer med undskyldninger [従位節]

〈彼がいつも言い訳をすること〉

altid at komme med undskyldninger [不定詞句]

denne manglende tagen hensyn



at man **ikke** tager hensyn [従位節]

〈おもいやりのないこと〉

ikke at tage hensyn [不定詞句]

Hansen & Heltoft (1994: 59) はさらにケンタウロス名詞句は他の動詞的名詞と同様に¹⁶ 主語と目的語を前置詞 af で表すことができるという。

af + 主語

23) vi hørte *klapren af fødder*

〈私たちは足がパチパチ鳴る音が聞こえた〉

24) *klirren af glas og flasker* trængte ud gennem vinduet

〈グラスとビンのカチャカチャ鳴る音が窓からもれ出ていた〉

25) der lød *mumlen af mange mennesker*

〈大勢の人がぶつぶつ言う音がしていた〉

26) *sammenstimlen af nysgerrige* må forhindres

〈野次馬が群がるのは阻止されなければならない〉

af + 目的語

27) vi må forhindre yderligere *ødelæggen af inventaret*

〈私たちは備品をさらに壊すのを阻止しなければならない〉

28) *opklæben af plakater* forbudt

〈ポスターを貼るのは禁止〉

29) *aflytten af politiets radiofrekvens* er ikke tilladt

〈警察の無線を盗聴するのは許されていない〉

まず上記の af + 主語 の例 (23)-(26) を見て気付くことは af の後ろに置かれた主語、すなわち -en 動詞的名詞の動作主が fødder, glas og flasker, mange mennesker,

nysgerrige というようにすべて不定の主語であることである。これは偶然であろうか。それとも、何らかの規則あるいは傾向があるのであろうか。

コーパスを用いて検索した結果、1 万を超える数の -en 動詞的名詞を含む名詞的語句が確認されたが、そのうち約 130 個が [-en 動詞的名詞 + af + 主語] を含むものであり、そのうちの約 116 個が不定の主語となる動作主を含んでいる。そして、全体の傾向としては -en 動詞的名詞の動作主が不定の主語の場合には [-en 動詞的名詞 + af + 不定の主語] の構造を示し、-en 動詞的名詞の動作主が定の主語の場合には [(定の動作主を表す) 名詞の所有格あるいは所有代名詞 + -en 動詞的名詞] の構造を示すと言えるのではないだろうか。

不定の主語	↔	定の主語
vrinsken af heste ¹⁷	↔	hestenes vrinsken
〈馬がいなくなること〉		〈それらの馬がいなくなること〉
en svag brummen af stemmer ↔		motorens brummen
〈声がかすかにつぶやくこと〉		〈そのエンジンがブンブンうなること〉
		jordens brummen
		〈大地がうなること〉
		hans dybe brummen
		〈彼が低い声でぶつぶつ言うこと〉
klirren af glas ↔		glassenes klirren
〈グラスがカチャカチャいうこと〉		〈それらのグラスがカチャカチャいうこと〉
en skarp klirren af porcelæn		porcelænets klirren
〈磁器が鋭くカチャカチャいうこと〉		〈その磁器がカチャカチャいうこと〉
klirren af nøgler		
〈鍵がガチャガチャいうこと〉		
en klirren af reagensglas		
〈試験管がカチャカチャいうこと〉		
klirren af våben		
〈武器がガチャガチャいうこと〉		
rumlen af vognhjul ↔		regeringens rumlen
〈車輪がガラガラ鳴ること〉		〈政府がやかましく騒ぎ立てること〉
en hørbar rumlen af vogne		kuglernes rumlen
〈車がガラガラと聞こえる音を 立てて進むこと〉		〈それらの玉がゴロゴロと音を 立てて転がること〉
rumlen af passerende undergroundstog		oprørets rumlen
〈通り過ぎる地下鉄が ゴトゴト鳴ること〉		〈暴動が地響きを立てて進むこと〉

そして次の例文において

- 30) ... begyndte vandet at pjaske ned i vasken og overdøvede *tyskernes skrålen*.

(Korpus 90)

〈…水が流しに飛び散り始めて、ドイツ人たちのわめいているのをかき消した。〉

tyskernes skrålen の代わりに skrålen af tyskerne とは言わないというインフォーマント¹⁸ の指摘から、-en 動詞的名詞の動作主が定の主語の場合には、[-en 動詞的名詞 + af + 主語] の構造は示さないと言えそうにも思われるが、今回のコーパスを用いた検索では実際には以下のような例文が 14 例確認された。¹⁹

- 31) en tredje [hører] *en brusen af sit blod* (Korpus 90)

〈3 番目の者は自分の血がどくどく流れるのが聞こえる〉

- 32) Gennem den daglige *druknen af den gamle Adam* svækkes det gamle og styrkes det nye menneske. (Korpus 2000)

〈老アダムが日常的に溺れるのを通して年老いた人間は弱り、新しい人間は強くなる。〉

- 33) Ikke en lyd. Kun den stadige *dryppen af tøjret udenfor*. (Korpus 90)

〈音ひとつしなかった。外で雪解け水の滴る音が絶え間なくするのみであった。〉

- 34) Det eneste han kunne gøre var at forkorte den periode mellem *falden af det første imperium* og stiftelsen af det andet. (Korpus 90)

〈彼ができる唯一のことは最初の帝国が崩壊するのと 2 つ目の帝国の建設との間の期間を短くすることであった。〉

- 35) en tiltagende *gulnen af skæret* (Korpus 90)

〈光が徐々に黄色くなっていくこと〉

- 36) Jeg hørte den svage *hvislen af hans skridt i græsset*, så stod han lige bag mig. (Korpus 90)

〈私は彼が芝の中を歩くかすかなシャーシャーという足音を聞いた。すると彼は私の真後ろに立っていた。〉

- 37) Kun den svage *knitren af brændet nede i komfuret* var at høre ... (Korpus 90)

〈料理用ストーブの中で薪がパチパチという音をかすかに立てているのが聞こえるだけであった…。〉

- 38) med en anelse *stivnen af det ellers så elskværdige afskedssmil* (Korpus 90)

〈ふつうはとても愛すべき別れの笑みがほんの少しこわばって〉

したがって -en 動詞的名詞の主語が定の場合にはふつうは名詞の所有格や所有代名詞を -en 動詞的名詞の前に置くが、場合によっては [af + 定の主語] という形で -en 動詞的名詞の後ろに置くこともあることが分かる。

また、今回のコーパスを用いた調査では -en 動詞的名詞の目的語が at-不定詞句になっている例を 1 例見つけたが、この場合にも目的語の不定詞句は af を介して -en 動詞的名詞と結びついている。

39) Angsten opstår ved undvigen af at gå sin frygt i møde, (Korpus 90)

〈不安は自らの恐怖心に向き合うのを避けることによって生ずる,〉

↔ man undviger at gå sin frygt i møde

at-不定詞句を目的語にとる -en 動詞的名詞は稀なようであるので、例文 (39) は興味深いものである。

3.2. 擬似ケンタウロス名詞句

§ 3.1 で見たように、Hansen & Heltoft (1994: 59) は、ケンタウロス名詞句では -en 動詞的名詞の主語や目的語を前置詞 af を用いて -en 動詞的名詞の後ろに置くことができるとして例文 (23)-(29) を示している。しかし、主語や目的語を -en 動詞的名詞の後ろに置くことができるのは事実であるが、しかしその全体の名詞句そのものがケンタウロス名詞句であるかという点、そうではないであろう。ケンタウロス名詞句は従位節や不定詞句と類似の構造を持っていないからである。

23) klapren af fødder 〈足がパチパチと鳴ること〉

↔ *at²⁰ klapper af fødder しかし ↔ at fødder klapper

24) klirren af glas og flasker 〈グラスとビンがカチャカチャ鳴ること〉

↔ *at klirrer af glas og flasker しかし ↔ at glas og flasker klirrer

25) munlen af mange mennesker 〈大勢の人がぶつぶつ言うこと〉

↔ *at mumler af mange mennesker しかし ↔ at mange mennesker mumler

26) sammenstimlen af nysgerrige 〈野次馬が群がること〉

↔ *at sammenstimler af nysgerrige しかし ↔ at nysgerrige sammenstimler

27) yderligere ødelæggen af inventaret 〈備品をさらに壊すこと〉

↔ *at man ødelægger af inventaret しかし ↔ at man ødelægger inventaret

28) opklæben af plakater 〈ポスターを貼ること〉

↔ *at man opklæber af plakater しかし ↔ at man opklæber plakater

29) aflytten af politiets radiofrekvens 〈警察の無線を盗聴すること〉

↔ *at man aflytter af politiets radiofrekvens

しかし ↔ at man aflytter politiets radiofrekvens

その上 -en 動詞的名詞の右側に動詞的特徴を示すものが何もないわけで、これではふつうの〔名詞 + af + 名詞〕となんら変わらない。しかし、今回のコーパスを用いた調査では、非常に稀なことではあるが、〔-en 動詞的名詞 + af + 主語〕あるいは〔-en 動詞的名詞 + af + 目的語〕の右側にケンタウロス名詞句の動詞的特徴

を示す（方向を示す）副詞的語句を伴った例があった。

af + 主語

- 40) Så mærkede jeg *den lette prikken af en jomfruelig pegefinger på min skulder*.
(Korpus 90)

↔ at en jomfruelig pegefinger prikker let på min skulder

〈それで私は乙女の柔らかい人差し指が私の肩を軽くつつくのを感じた。〉

- 41) men May løste den ved forsigtigt at sætte skub i *den langsomste og mest usikre rullen af en golfbold ned i et lille hul, verden endnu har set*. (Korpus 2000)

↔ at en golfbold ruller ned i et lille hul ...

〈しかし May は、ゴルフボールがこれまでに誰一人として見たことのないようなほどのゆっくりとしたスピードで、そして一番不安定に小さな穴に向かって転がっているのに慎重に一押しを加えることでそれ [=その課題] を解決した。〉

af + 目的語

- 42) Hun ser *samme dirrende krængen af læbernes glatte hud op over spidse tænder*.
(Korpus 90)

↔ at han krænger læbernes glatte hud dirrende op over spidse tænder.

〈彼女には唇のつるりとした部分を鋭い歯の上にかぶせて [獣と] 同じように震わせながらむき出しにしているのが見える。〉

- 43) Statsministeren havde fået stillet en række spørgsmål i forbindelse med *regeringens egenrådige inddragen af Danmark i De Forenede Europæiske Socialdemokratiers aktioner mod Østrig* ... (Korpus 2000)

↔ regeringen inddrager Danmark egenrådigt i De Forenede Europæiske Socialdemokratiers aktioner mod Østrig ...

〈首相は政府が独断でデンマークをオーストリアに反対するヨーロッパ社会民主党連合の諸行動に巻き込むことに関連して多数の質問を受けていた…。〉

上の [af + 主語] の例 (40) *den lette prikken (af en jomfruelig pegefinger) på min skulder* と (41) *den langsomste og mest usikre rullen (af en golfbold) ned i et lille hul, verden endnu har set* は [af + 主語] を除いた部分を見ると、at-従位節内の語順と類似しており、ケンタウロス名詞句の特徴を備えているので、全体を擬似ケンタウロス名詞句 (pseudo-kentauernominalfraser) と呼んでも良いのではないだろうか。

また、上の [af + 目的語] の例 (42) *samme dirrende krængen (af læbernes glatte hud*

op over spidse tænder と (43) *regeringens egenrådige inddragen* (af) *Danmark i De Forenede Europæiske Socialdemokratiers aktioner mod Østrig ...* は前置詞 *af* を除いた部分を見ると *at*-従位節内の語順と類似しているので、これらも全体を擬似ケンタウロス名詞句と呼んでも良いであろう。なお、この〔*af* + 目的語〕の場合の方が〔*af* + 主語〕の場合よりも *at*-従位節内の語順との類似性は大きい。

3.3. ケンタウロス名詞句の動詞的部分の構造

Hansen & Heltoft (1994: 60-61) は言う。

- (I) ケンタウロス名詞句の右側の動詞的部分に何が入るかということは、中核要素にある -en 動詞的名詞の結合価 (valens) にかかっている。したがってこの点に関しては不定詞句、従位節、ケンタウロス名詞句との間に完全な一致が見られる。

at hævde sig på andres bekostning

〈他人を犠牲にして自分の権利を主張すること〉

at han hævder sig på andres bekostning

〈彼が他人を犠牲にして自分の権利を主張すること〉

hans hævden sig på andres bekostning

〈彼が他人を犠牲にして自分の権利を主張すること〉

- (II) ケンタウロス名詞句の中核となる動詞的名詞の強勢状況も真の動詞構文の強勢状況とまったく並行している。すなわち、ケンタウロス名詞句は弱強勢の中核となる動詞を持つことが可能である。

*han 'spiller på kla'veret*²¹ 〈彼はピアノを弾いている〉

*han °spiller*²² *kla'ver* 〈彼はピアノを弾く〉

hans 'spillen på kla'veret 〈彼がピアノを弾いていること〉

hans °spillen kla'ver 〈彼がピアノを弾くこと〉

- (III) 結合価に関して唯一存在する制限は、ケンタウロス名詞句が代名詞の目的語や限定語 (*bestemmer*) の付いた目的語を持つことはできないということである。つまり、ケンタウロス名詞句は本来の目的語項 (*objektargument*) を持つことができない。

denne læsen aviser/Kierkegaard 〈この、新聞/キエルケゴールを読むこと〉

**denne læsen dem/avisen/en avis/nogle aviser/begge aviser*

〈この、それら/その新聞/ある新聞/いくつかの新聞/両方の新聞を読むこと〉

- (IV) しかしながら、中核となる動詞が弱強勢である場合、すなわちユニット強勢 (*enhedstryk*) を成す語結合の一部となると、目的語は代名詞であるこ

とが可能であり、また限定語を持つことができる。

hans gemytlige „kniben det ene øje i 〈彼が陽気に片一方の目を細めること〉

den årlige „slåen katten af tønden²³ 〈毎年、樽から猫を叩き出すこと〉

rektors „holden de arme lærere hen med snak

〈校長がうまいことを言って哀れな教師たちを引き止めておくこと〉

rektors „holden dem hen med snak

〈校長がうまいことを言って彼らを引き止めておくこと〉

drengens besværlige „staven sig igennem den svære tekst

〈その男の子がその難しいテキストを苦勞してたどたどしく読むこと〉

Hendersons „given de andre skylden for det hele

〈Henderson がそのすべてのことを他の人たちのせいにする事〉

- (V) 前置詞目的語（前置詞を介した目的語）を持つ構文はユニット強勢や限定語に関する要求をしない。

denne læsen i avisen 〈この、新聞を読んでいること〉

den snagen i folks privatliv 〈その、人びとの私生活を暴き出すこと〉

hans bæren rundt med/på en tung kasse 〈彼が重い箱を運び回っていること〉

denne begejstrede vinken med både arme og ben

〈この、興奮して四肢全部を振って合図していること〉

deres håben på Messias' genkomst 〈彼らがメシアの再来を望んでいること〉

den hjerteløse grinen ad Haarder 〈その、Haarder を薄情に笑うこと〉

hendes insisteren på at betale 〈彼女がお金を払うと言い張ること〉

- (VI) 中核をなす動詞が強強勢の場合、前置詞を介さない代名詞の目的語は、目的語が再帰代名詞である場合にのみ可能である。

hans evindelige brokken sig 〈彼が絶えず文句を言うこと〉

jeres vægren jer ved at bidrage 〈あなたたちが貢献することを拒否すること〉

din ømmen dig over udgifterne 〈あなたが出費を嘆くこと〉

以上が Hansen & Heltoft (1994: 60-61) の記述するところであり、ケンタウロス名詞句の記述において、この -en 動詞的名詞の結合価の関わりと元の動詞の強勢との関わり、特に (II) および (V) の前置詞を介した目的語を持つ構造との関わり、また (IV) のユニット強勢〔上記 (III) denne læsen aviser も at „læse a'viser というようにユニット強勢である〕との関わりに関する指摘、さらに (VI) の強勢を持つ動詞に許される代名詞の目的語は再帰代名詞だけに限定されるという指摘は 1994 年まで他の誰も行なっていなかった画期的なものである。この両氏の記述によってそれまで不明であった多くの事柄が解明されたと言えるであろう。

ところで、本稿の § 1 (p. 75, p. 76), § 2 (p. 79, p. 80) でケンタウロス名詞句の中

で -en 動詞的名詞は目的語などをとるとしてきたが、上記の両氏の記述から、これは正確ではないことが分かる。つまり、目的語と言っても、ケンタウロス名詞句の中で目的語になり得るのは、再帰代名詞のほかは、限定語の付かない名詞であったり、ユニット強勢を持つ構造における目的語であったり、前置詞を介在する目的語であったりするということである。

ただし筆者が今回コーパスを用いて調査した結果、上記の両氏の記述とは異なる点が認められた。以下に紹介してみたい。

3.4. 目的語が限定語付きの名詞のもの、あるいは再帰代名詞以外の代名詞のものの文中では動詞に強勢があり、ケンタウロス名詞句中でも -en 動詞的名詞に強勢があるものがある。

- 44) Mødet med hende indebærer for Thomas en overvindelse af den seksualforkvakling, som *hans mors* rent kropslige seksualmoral og *'knyttten ham til sig* har medført. (Korpus 90)

↔ hun 'knytter ham til sig.

〈彼女との出会いは Thomas にとって、肉体だけに関する彼の母親の性道徳と母親が彼に自分を慕わせることがもたらした性の歪みの克服を当然意味する。〉

- 45) at han ved at forlade mig på dette tidspunkt på denne måde ved *denne smålige gentagne for'laden mig* har tynget disse mine første skridt, (Korpus 90)

↔ han for'lader mig ...

〈彼がこの時点でこのようにして私から去って行くことによって、このようにこそこそと幾度となく私から去って行くことによって、これらの私の最初の歩みを重いものにしたこと、〉

- 46) ... og Isabelles endelige død. d.v.s. *hendes for'laden denne verden som destruktiv kraft* ... (Korpus 90)

↔ hun for'lader denne verden ...

〈…そして Isabelle の遂なる死、すなわち、彼女が破壊的な力としてこの世を去ること…。〉

- 47) Mit forslag er - med den viden vi har nu, som Platon og Plotin ikke havde - at det er *denne "nåen bunden"*, der fører til "Big Bang". (Korpus 90)

↔ man 'når bunden.

〈私の提案は、プラトンとプロティヌスは持っていなかったが、我々が今有している知識でもって、ビッグ・バンに至るのはこの「底にとどくこと」である。〉

その出現数は少ないものの、上の (44)-(47) のように上記の Hansen & Heltoft の指摘 (III)-(VI) に反する例がある。これらの例文における強勢に関しては1名のインフォーマントに確認したにすぎないし、またこれらの例文が標準語の規範を正確に反映しているかどうか分からないが、いずれにせよ、Hansen & Heltoft (1994: 60-61) の記述に何らかの修正を要求する可能性を持つものとして指摘しておきたい。なお、さらに次の2例はインフォーマントは「良くない言い方」“dårligt sprog” であるとするものの、(III)-(VI) に反する例として挙げておく。

- 48) Vi har stået imod. Stridt gennem livets 'prøven vores oprigtighed. Men vi holdt sammen og ud. (Korpus 2000) [dårligt sprog]

↔ Livet 'prøver vores oprigtighed.

〈我々は抵抗してきた。人生が我々の誠実さを試すのを闘いぬいてきた。そして我々は力を合わせて耐えぬいた。〉

- 49) Er der en glidning i gal retning af ansvarsplacering og af bevidst 'overholden de love og regelsæt, som naturligvis binder os herinde i endnu højere grad, end det binder andre? (Korpus 90) [dårligt sprog]

↔ Man 'overholder bevidst de love og regelsæt, som naturligvis binder os herinde i endnu højere grad, end det binder andre.

〈責任の所在と、他の人たちよりも当然この中の我々をずっと強く縛り付けている諸々の法律と規則一式を意識して守ることに、間違った方向への横滑りがあるのだろうか。〉

次に、これも1名のインフォーマントに確認したにすぎないが § 3.5 のような場合がある。

3.5. 目的語が限定語付きの名詞であり、元の文中では動詞が強強勢であるにもかかわらず、ケンタウロス名詞句内では -en 動詞的名詞が弱強勢であるもの

- 50) Ifølge Bent Benzens egen erfaring, så var en opstramning af opsyn og *en konstant* 'pusten de kriminelle i nakken den eneste metode i forsøget på at holde dem på den rigtige side af loven. (Korpus 2000)

↔ Man 'puster konstant de kriminelle i nakken.

〈Bent Benzen 自身の経験によれば、監視の強化と犯罪者たちを常に追跡することが、彼らを法の正しい側に留めておく試みにおいて唯一の方法であった。〉

- 51) *Michaël Dittmanns “kyssen” de kvindelige sangere på kinden har også vakt anstød.* (Korpus 90)

↔ *Michaël Dittmann* 'kysser de kvindelige sangere på kinden.

〈Michaël Dittmann が女性歌手たちの頬にキスをすることもひんしゅくを買った。〉

- 52) *Den form for kiggen hinanden i kortene gør man nu ikke.* (Korpus 90)

↔ *Man* 'kigger hinanden i kortene.

〈そのような形で互いの手の内を窺うということはするものではないですよ。〉

- 53) *deres barske, ideologi-bestemte sigen den dybt bængstede patient “sandheden”* (Korpus 90)

↔ *De* 'siger den dybt bængstede patient sandheden ...

〈彼らが、心底怖がっている患者に、手荒に、イデオロギーに基づいて、「真実」を告げること〉

- 54) *efter seks måneders* gåen tur med hunden og *malen barnebarnets lejlighed* (Korpus 90)

↔ *man* 'maler barnebarnets lejlighed i seks måneder.

〈6 ヶ月の間、犬を散歩に連れて行き、孫のマンションのペンキ塗りをした後で〉

もしも例文 (50)-(54) が標準語の規範に則しているものであるならば、-en 動詞的名詞の強勢状況は元の文中の述語動詞の強勢状況とまったく同じになる、という上記 (II) は修正されなければならないが、どうであろうか。

3.6. ケンタウロス名詞句の文中における機能

ケンタウロス名詞句の文中における機能、すなわちケンタウロス名詞的語句の機能について、Hansen & Heltoft (1994: 61) は「ケンタウロスは、所有格形が欠けていることより生じる例外はあるものの、名詞が持つあらゆる統語的機能を有する」として、次の例文を挙げている。

derfor irriterer den megen flytten om på bøgerne bibliotekets brugere

〈したがって本をたくさん移し変えることに図書館の利用者は腹を立てている〉

derfor irriterer det bibliotekets brugere at der flyttes så meget om på bøgerne

〈したがって本がそれほどたくさん移し変えられることに図書館の利用者は腹を立てている〉

ケンタウロス名詞句の所有格、すなわちケンタウロス名詞句を構成するすべての語の群所有格は筆者の今回のコーパスを用いた調査でも見つからなかったし、ケンタウロス名詞句の構造の複雑さと、ケンタウロス名詞的語句としての文中に

おける他の文構成素との関わりの複雑さから、ケンタウロス名詞句の所有格が存在しないことが確実であることは想像に難くないが、ケンタウロス名詞句の中核要素の中心である *-en* 動詞的名詞は、非常に稀ではあるにしても、所有格形が存在することはすでに本稿の § 2.1 (p. 80) で述べた通りである。

以下では Hansen & Heltoft (1994: 61) を補足して、ケンタウロス名詞的語句が文中で果たす様々な機能を例示する。

主語として

55) *MRs skæren alternative behandlinger over én kam kan faktisk være nyttig.* (Korpus 2000)

〈MR が他にとりうる諸々の治療法を一律に扱うことは実際有益かも知れない。〉

56) *Alligevel er den nye bølges slutten op om et magasin karakteristisk.* (Korpus 90)

〈それにもかかわらず新しい波が雑誌を支持することは特徴的である。〉

57) *Hendes tørsten efter stærke varer har desværre slået nogle hjerneceller ihjel.* (Korpus 90)

〈彼女が強い品物を渴望することが原因となって、残念ながら脳細胞がいくつか死滅した。〉

補語として

58) *Resultatet blev ikke en nationalromantisk slutten op bag disse gebrækkelige neologismer; men en total afvisning.* (Korpus 2000)

〈その結果は、これらの欠陥のある新造語を民族ロマン主義的に支持することとはならず、完全に拒絶することとなった。〉

59) *Det er en total underlæggen sig USA.* (Korpus 2000)

〈それはアメリカ合衆国に完全に屈服することである。〉

60) *Og det er også en konsekvent bryden løfter ...* (Korpus 2000)

〈そしてそれは徹底して約束を破ることである…。〉

目的語として

61) *han ... kunne stadig høre deres grove banden over, at det gik for langsomt og at de manglede sten.* (Korpus 90)

〈彼は、…遅すぎる、レンガが足りない、と彼らが乱暴に悪態をついているのが未だに聞こえた。〉

62) jeg forstår ikke *Socialdemokratiets falden på knæ* (Korpus 90)

〈私には社会民主党がひざまづくのが理解できない〉

63) Stop diskussionerne og *den energiske malen falden på væggen* (Korpus 2000)

〈議論とそうに精を出して縁起でもないことを言うのを止めよ〉

副詞的語句：前置詞句として

64) Efter lang tids *snakken* om fordele og ulemper ved at drive behandling samme sted, som familien bor, blev mor og datter enige om at finde et andet sted. (Korpus 90)

〈一家が住んでいるのと同じ場所で治療を行なうことの利点と欠点について長い時間話した後、母と娘は別の場所を見つけることで意見が一致した。〉

65) man lærer undervejs meget om *mafiaens trængen op mod nord* (Korpus 90)

〈マフィアが北に向かって強引に勢力を伸ばしていることについて、その途中で多くを学ぶ〉

66) Kauffmanns budskab lød, at Danmarks sikkerhed var afhængig af *en klar dansk vælgen side*. (Korpus 2000)

〈Kauffmann のメッセージは、デンマークの安全はデンマークがどちらの側につくかを明瞭に決めることにかかっているというものであった。〉

4. ケンタウロス名詞句の表わす意味と動作態様²⁴ (aktionsart)

Hansen & Heltoft (1994: 61) によると、ケンタウロス名詞句は内容の側面から見ると、動作 (aktivitet) 的な動作態様にのみ限定されるという意味で動作態様 (aktionsart) の体系と結びついており、形態素 -en は継続的動作 (durativ aktivitet) を表わすと言う。

Hansen & Heltoft (1994: 61ff.) によると、デンマーク語の動詞は動作態様に関して次の3グループに分かれると言う。

(1) 状態動詞²⁵ (statiske verber)

(2) 動的動作動詞 (dynamiske aktivitetsverber²⁶)

(3) 動的推移動詞 (dynamiske overgangsverber) (あるいは、変化動詞²⁷ (transformative verber) とも言う)

そしてこれら3種類の動作態様は、2項対立的に、状態動詞と非状態動詞 (non-statiske verber) が対立し、さらに、非状態動詞の中で、動作動詞²⁸ と変化動詞が対立していると言う。Durst-Andersen & Herslund (1994) が指摘するように、デンマーク語の動詞には文法的範疇としての相 (あるいは体) (aspekt) は存在せず、語彙的レベルでの動作態様 (aktionsart) しか存在しないが、デンマーク語において語彙化された動作態様と語彙化されず文法的に表現される動作態様とを比

較検討することが、ケンタウロス名詞句の記述に必要であると Hansen & Heltoft (1994: 61) は言う。

この点を補足すると、デンマーク語の動詞には、ある特定の動作態様しか持たないグループ、すなわち、語彙化された動作態様を持つ動詞のグループがある一方、複数の動作態様を持ち、文法的・統語的違いでその動作態様を表わす動詞のグループがあるのである。²⁹ これを他動詞を例にした Durst-Andersen & Herslund (1994: 101) の表で見てみると下のようになる。

Verb-action	Verb-action/activity	Verb-activity
kvæle 〈絞め殺す〉	skyde 〈撃ち殺す〉/〈撃つ〉	arbejde 〈仕事をする〉
dræbe 〈殺す〉	skrive 〈書き終える〉/〈書いている〉	pege 〈指さす〉
sluge 〈飲み込む〉	operere 〈手術をする〉/〈手術をしている〉	træde 〈踏んでいる〉
.	.	.
.	.	.
.	.	.

Durst-Andersen & Herslund (1994) の言う aktionsverber とは Hansen & Heltoft (1994: 61) の言う transformative verber のことである。つまり、aktionsverber こと変化動詞の kvæle, dræbe, sluge 等および動作動詞の arbejde, pege, træde 等が語彙化された動作態様を持ち、他方、変化動詞/動作動詞の両面を持つ動詞 skyde, skrive, operere 等が動作態様の点で語彙化されておらず、文法的・統語的違いによって動作態様を表わす動詞である。

なお、複数の動作態様を持つ動詞には上のように動作動詞/変化動詞の二面性を持つもののほかに、下の § 4.2 で見るように、vente 〈待ち受けている、来るものと思っている〉/〈待つ〉, bære 〈持ち運んでいる；支えている〉/〈運ぶ〉, søge 〈探している〉/〈探し求めている〉のように状態動詞/動作動詞の二面性を持つものもある。

4.1. 語彙化された動作態様

(1) 状態動詞 (statiske verber)

自動詞：være 〈～である；存在する〉, bo 〈住んでいる〉, ligge 〈横たわっている〉, mangle 〈欠けている〉, restere 〈残っている〉, stå i vejen 〈障害になっている〉, hænge 〈ぶら下がっている〉, vare 〈(時間的に)続く〉

他動詞：have 〈持っている〉, eje 〈所有している〉, forstå 〈分かっている〉, vide 〈知っている〉, ligne 〈似ている〉, elske 〈愛している〉, hade 〈憎んで

いる〉, omfatte 〈含んでいる〉, behøve 〈必要としている〉, mangle 〈不足している〉, koste 〈値段がする〉

(2) 非状態動詞 (non-statiske verber)

(2a) 変化動詞 (transformative verber)

自動詞：blive 〈～になる〉, komme 〈来る〉, dø 〈死ぬ〉, forsvinde 〈消失する〉, flygte 〈逃げる〉, dukke op 〈出現する〉, falde 〈落ちる〉, ankomme 〈到着する〉, ruste 〈錆びる〉, gro 〈成長する〉, vælte 〈倒れる〉, synke 〈沈む〉

他動詞：drikke 〈飲む〉, dræbe 〈殺す〉, knuse 〈砕く〉, splintre 〈粉碎する〉, opklare 〈解明する〉, afslutte 〈終える〉, vælte 〈倒す〉, sænke 〈沈める〉

(2b) 動作動詞 (aktivitetsverber)

自動詞：arbejde 〈仕事をする〉, flirte 〈いちゃつく〉, hovre 〈勝ち誇る〉, nyse 〈くしゃみをする〉, spekulere 〈考える〉, protestere 〈抗議する〉, spadserere 〈散歩する〉, lyne 〈(稲妻が) 光る〉, sne 〈雪が降る〉

他動詞：diskutere 〈議論する〉, ramme 〈命中させる〉, strejfe 〈かるく触れる〉, snitte 〈刻む〉, slå 〈叩く〉, pleje 〈看護する〉, hjælpe 〈助ける〉, vejlede 〈指導する〉

Hansen & Heltoft (1994: 62-63) は語彙化された動作態様の例を上のように挙げた上で、ケンタウロス名詞句の動作態様はそれ自体が語彙的な現象ではなく、文法的なものであるとする。

(A) ケンタウロス名詞句は動作態様として継続的動作の意味 (durativ aktivitetsbetydning) を持ち、均質な状態を表わすことはできない。動作動詞の構成するケンタウロス名詞句は不均質な継続あるいは反復を表わす。

67) *familiens holden fast ved traditionerne* styrker dens sammenhold

〈家族が伝統を守ることは家族の団結を強める〉

68) *jeg hader egentlig denne soven længe hver søndag*

〈私はほんとうはこのように毎日曜日に遅くまで寝ることが大きらいです〉

69) *pressen giver hans legen kispus med bestyrelsen* skylden for hans upopularitet

〈報道関係者たちは彼が不人気なのは彼が理事会をからかうせいだとしている〉

70) *nu kan det snart være nok med denne flirten med socialisterne*

〈もういいかげん、このように社会主義者たちに色目を使うのはうんざりだ〉

変化動詞は、反復的に解釈され、したがって継続的動作として見なされないかぎり、ケンタウロス名詞句を構成することはできない。これゆえにこそ、派生要

素 -en が継続的意味を表わすとする事の妥当性があると Hansen & Heltoft (1994: 63) は言う。

71) der er ingen grund til at være imponeret over *hans falden på halen for publikum*

〈彼が聴衆を無批判に賞賛するのに感心する理由はひとつもない〉

72) *denne tagen afsked* går mig på nerverne

〈こうして別れを告げることは私の癪に障る〉

73) deres måltider er simpelt hen *en evindelig æden sig* syg

〈彼らの3度の食事はただただ食べまくって病気になることである〉

74) der er nu noget festligt ved *denne lukken op og tagen imod*

〈この開けて迎えることはなんとなくお祭り気分ですよ〉

75) årsagen er *den megen kommen og gåen*

〈その原因は絶えず行き来することである〉

(B) 一義的な状態動詞, すなわち他の動作態様を持たない状態動詞と状態動詞的読みは, ケンタウロス名詞句の中核要素中には現れない。

a. 意志を表わさない知覚動詞・認識動詞 (non-volitive perceptions- og kognitionsverber)

76) **denne haden frisk luft*

〈この新鮮な空気を大きらいなこと〉

77) **elevernes forståen matematik*

〈生徒たちが数学を理解していること〉

78) **din kenden forskel*

〈あなたが違いが分かること〉

79) **hans regnen med din hjælp*

〈彼があなたの援助を当てにしていること〉

b. 関係を表わす状態動詞 (relationelle tilstandsverber)

80) **bladets indeholden sladder*

〈その雑誌がゴシップを載せていること〉

81) **selskabets ejen skibsaktier*

〈その会社が船舶の株を保有していること〉

82) **hans årelange boen på Amager*

〈彼が長年 Amager 島に住んでいること〉

83) **foreningens ensidige beståen af mandlige akademikere*

〈その協会が偏って男性の大学院修了者で構成されていること〉

ただし、次の2つの場合には上の限りではないと、Hansen & Heltoft (1994: 64) は言う。

① 軽蔑的な意味 (pejorativ betydning)

ケンタウロス名詞句は感情的に判断する文脈に非常に頻繁に現れ、しばしば「軽蔑的な」意義を有している。しかしこのことは語用論的な事柄である。つまり、長引いたり、繰り返して起こることは苛立ちを呼び起こすからであるとする。したがって次のケンタウロス名詞句

84) børnenes syngen fædrelandssange <子供たちが祖国の歌を歌うこと>
に続く述部としては opmuntrer mig <私を励ます> よりむしろ irriterer mig <私を苛立たせる> の方が予想されると Hansen & Heltoft (1994: 64) は言う。

しかしながらケンタウロス名詞句は軽蔑的ではない文脈にも使われるわけで、そのためケンタウロス名詞句の意味的特徴において軽蔑性は一般性のあるものとは言えないとして、軽蔑的な意味ではない次の例文を示している。

85) arkæologernes søgen efter spor gav omsider resultat

<考古学者たちが痕跡を探していたことはついに結果をもたらした>

86) jeg er imponeret over denne opofrende tagen sig af de svage

<私はこうして献身的に弱者たちの面倒をみることに感銘している>

87) efter flere års flakken om i Sydamerika slog han sig omsider til ro som cykelsmed på Slagelsekanten

<長年にわたり南アメリカをさまよった後、彼はついに Slagelse 辺りで自転車屋として落ち着いた>

88) så kom der en periode hvor vi kun hørte havets dumpe hamren mod kysten

<そうして私たちには海が岸に打ちつける鈍い音しか聞こえない時期が訪れた>

89) Nordkoreas laden hånt om alle internationale aftaler

<北朝鮮があらゆる国際的合意を無視すること>

Hansen & Heltoft (1994) はこれまでケンタウロス名詞句は非常に生産的であることに言及し、また、多くの場合に軽蔑的な意味を表わすと記述してきたが、文体的にどのような性質を持つのかということには触れていない。一方、Møller (1945: 25) は、-en 動詞的名詞が所有格と結びつく場合は書き言葉に特徴的であるとして、軽蔑的な意味ではない次の例を示している。

90) Tapeternes Gulnen <壁紙が黄色くなること>

91) Kattens Mjaven <猫がニャーニャーとなくこと>

92) de opdagede hans Forsvinden <彼らは彼が消えたことに気付いた>

93) han vaagnede ved en Bils Tuden <彼は1台の車がクラクションを鳴らす音で目が覚めた>

また同様に

94) der hørtes Brægen af Faar <羊がメーメーと鳴く声が聞こえた>

95) Tuden af Biler <車がクラクションを鳴らすこと>

必ずしも所有格が含まれないといけなくどうか分からないが、このように軽蔑の意味をもたないケンタウロス名詞句（そして擬似ケンタウロス名詞句）は書き言葉的であると言えるのではないか。一方、軽蔑的な意味合いを持つケンタウロス名詞句は話し言葉的傾向が強いと言えるのではないかという印象が持たれる。

② 語彙化

Hansen & Heltoft (1994: 64-65) によると、かなりの数の -en 動詞的名詞が元々ケンタウロスであったものが語彙化されたものであるして、次の例を挙げている。

gaben, skelen, viden, kunnen, være, banken, kvidren

ここで注意しなければならないのは、これまでに何回かコメントしたように、上記の Hansen & Heltoft の記述は、-en 動詞的名詞とケンタウロス名詞句との区別が曖昧なものとなっているため、次のように読み替えられなければならない。

ケンタウロス名詞句の中核要素を構成する -en 動詞的名詞のうちのかなりの数のものが語彙化されて正真正銘の名詞になっている。

試みに、上で Hansen & Heltoft が挙げた例語が辞典で見出し語として扱われているかを、デンマーク語 - 英語大辞典の DES, 正書法辞典の RO, デンマーク語国語大辞典の ODS で見てみると次のようである。（見出し語として取り上げられているばあいには ○、そうでない場合には × で示す。）

	gaben	skelen	viden	kunnen	være	banken	kvidren
DES	○	○	○	○	○	○	○
RO	×	○	○	○	○	×	×
ODS	×	×	○	○	○	×	×

RO と ODS はケンタウロス名詞句を構成する -en 動詞的名詞を -else, -(n)ing, -eri など他の派生語尾に終わる動詞的名詞と同様に見出し語として取り上げていないのであるから、上記の例語の内 viden, kunnen, være の3語は正真正銘の名詞と考えているものと思われるが、一方, gaben, banken, kvidren は正真正銘の名詞としては扱っていない。また, skelen に関しては RO と ODS とでは扱いが異なっている。その点, DES は gaben, banken, kvidren (および skelen) も見出し語として扱っ

てはいるものの、DES はこれら以外にも多数の -en 動詞的名詞を見出し語として扱っており、DES が gaben, banken, kvidren を挙げているからといって、これらが正真正銘の名詞であるとは限らない。では、どのようにして -en 動詞的名詞が語彙化された名詞かどうか見極めたら良いのであろうか。Hansen & Heltoft (1994: 64) は、正真正銘の名詞は、例えば次の点において、ケンタウロス名詞句を構成する -en 動詞的名詞とは異なると言う。

- (i) 動詞に相当するものがない：opvågnen
- (ii) 必ずしも継続的 (durativ) あるいは反復的 (iterativ) 意味を持たない：gaben
- (iii) 状態動詞 (statiske verber) のグループに属する：viden
- (iv) ケンタウロス名詞句の動詞部分を構成する可能性がない：*hans kunnen fransk
- (v) 合成語になり得る³⁰：spurvekvidren, paratviden, hjertebanken, ikrafttræden, opvågnen, afstandtagen

そしてこれらの正真正銘の名詞も、ケンタウロス名詞句を構成する -en 動詞的名詞と同様に、既知形語尾を付けることはできないと言う：

*gabenen, *videnen, *indtrængen

上記 (i) の補足説明をすると、opvågnen に対して at opvågne という動詞は存在しないということである。また、(v) で示した合成語になり得るものの中には、正真正銘の名詞の他に、例えば例文 (22) denne tagen hensyn の tagen のように、ケンタウロス名詞句を構成する -en 動詞的名詞も存在する可能性は十分あることを指摘しておきたい。

また、hilsen や præ(di)ken などという名詞は、hilsenen, præ(di)kenen という既知形だけでなく、hilsener, præ(di)kenen という複数形も存在しており、上で見た元来ケンタウロス名詞句を構成する -en 動詞的名詞から語彙化されて正真正銘の名詞になったものとは根本的に異なるものであると Hansen & Heltoft (1994: 64-65) は言う。一方、ケンタウロス名詞句を構成する hilsen, præ(di)ken も当然存在するとして、次の例を挙げている。

96) jeg er efterhånden træt af hans prædiken moral

〈私は彼が道徳を説くのにに段々嫌気がしてきている〉

97) der blev en hilsen og en vin da toget kom

〈列車が到着したときに挨拶がなされ、手がふられた〉

以上の元来ケンタウロス名詞句を構成する -en 動詞的名詞から語彙化された正真正銘の名詞に関する Hansen & Heltoft の記述を念頭に置き、本稿末の Appendix 1 を見てみると、比較的出现数の多い -en 動詞的名詞の内のいくつかがこの種の正真正銘の名詞であることが分かる。

aftagen 〈減少, 低下〉, banken 〈打つこと〉, beståen 〈存在; 存続〉, forbliven 〈残留〉, formåen 〈能力〉, forsvinden 〈消失; 失踪〉, fremtræden 〈振る舞い; 外見〉, gaben 〈あくびをすること〉, indtræden 〈入ること, 入場, 入会〉, kunnen 〈能力〉, medvirken 〈協力〉, optræden 〈登場, 出現; 行動〉, skelen 〈斜視〉, skelnen 〈区別〉, skiften 〈交代, 変化〉, tøven 〈ためらい〉, undren 〈驚き〉, viden 〈知識〉, være 〈存在〉

上に示した語の出現数のすべて, あるいはほとんどすべてがこの種の正真正銘の名詞であろうが, こと skelen に関しては事情が異なり, Appendix 1 に見る出現数 105 の内のほとんどが skele til ~ 〈~を横目で盗み見る, ~にちらっと目を走らせる; ~をものほしそうに見る, ~を欲しがる〉という動詞表現に基づいたケンタウロス名詞句を構成する -en 動詞の名詞である。

また Appendix 1 に見る出現数 242 の prædiken 〈説教〉はそのすべて, あるいはほとんどが複数形をも有する正真正銘の名詞であろう。

4.2. 文法化された動作態様

§ 4.1 で Hansen & Heltoft (1994) が示した, 動作態様体系のうちの語彙化された部分について検討したが, Hansen & Heltoft (1994: 65-67) は, デンマーク語が残りの部分についてどのように文法化するかということについて, Durst-Andersen & Herslund (1996b)³¹ の記述を援用して, 次のように説明する。

多くのデンマーク語の動詞は動作態様に関して中立的であり, 統語構造を通して初めて動作態様は明瞭化される。つまり, 他動詞は脱他動詞化されて動作動詞となるが, これは (1) 状態動詞的読みから動作動詞的読みへの変換として, (2) 推移動詞的読みから動作動詞的読みへの変換として, (3) 非継続的動作動詞的読みから継続的動作動詞的読みへの変換として, 実現されると言う。なお, (3) 非継続的動作動詞的読みから継続的動作動詞的読みへの変換, は Hansen & Heltoft (1994) が追加したものである。³² なお, 読み替えパターンは次のように〔動詞+目的語〕→〔動詞+前置詞目的語〕である。

状態 Statisk

de ventede hende

〈彼らは彼女を待ち受けていた;
彼女が来るものと思っていた〉

remmen bærer spærene

〈土台は垂木を支えている〉

de søgte en bolig

〈彼らは住居を手に入れようとしていた〉

→ 動作 Aktivitet

de ventede på hende

〈彼らは彼女を待っていた〉

han bærer på alle hendes bøger

〈彼は彼女の本を全部運んでいる〉

de søgte efter en bolig

〈彼らは住居を探していた〉

推移 Overgang

hun læste avisen
 〈彼女はその新聞を読んだ〉
 de drak vinen
 〈彼らはそのワインを飲んだ〉
 hun skrev en kronik
 〈彼女はある特別記事を書いた〉
 de drejede rattet
 〈彼らはハンドルを回した〉

→ 動作 Aktivitet

hun læste i avisen
 〈彼女はその新聞を読んでいた〉
 de drak af vinen
 〈彼らはそのワインを飲んでいた〉
 hun skrev på en kronik
 〈彼女はある特別記事を書いていた〉
 de drejede på rattet
 〈彼らはハンドルを回していた〉

非継続的動作 Non-durativ aktivitet → 継続的動作 Durativ aktivitet

de slog børnene
 〈彼らは子供たちを叩いた〉
 jeg har kysset pigen
 〈私はその女の子にキスをした〉
 du må ikke røre dørkarmen
 〈あなたはドアの枠張りに
 触れてはいけない〉

de slog på børnene
 〈彼らは子供たちを叩き続けた〉
 jeg har tit kysset på pigen
 〈私はその女の子によくキスをした〉
 du må ikke røre ved dørkarmen
 〈あなたはドアの枠張りを
 いじくってはいけない〉

4.3. 文法的動作態様としてのケンタウロス名詞句形成

本稿 § 3.3 で示したように, Hansen & Heltoft (1994) はケンタウロス名詞句を構成する -en 動詞的名詞の結合価との関連で, ケンタウロス名詞句は本来的目的語を持つことができないが, 一方, „spille kla'ver, „læse a'viser, „slå 'katten af tøndensようなユニット強勢を成す動詞結合, læse i avisen のような前置詞を介した目的語³³, brokke sig などのような再帰代名詞を目的語とする再帰動詞はケンタウロス名詞句を構成できると説明してきたが, これらすべては実は動作態様との関連で説明できるとしている (Hansen & Heltoft 1994: 65-67). つまり, 本来的目的語を持つもので継続的動作の読みと結び付かないものはすべてケンタウロス名詞句から排除されるというのである。

状態 Statisk

*deres venten hende
 *remmens bæren spærene
 *deres søgen en bolig

→ 動作 Aktivitet

deres venten på hende
 hans bæren på alle hendes bøger
 deres søgen efter en bolig

状態動詞においては, ケンタウロス名詞句を構成する -en 動詞的名詞の派生語尾 -en そのものは継続的動作を表わすのに対して, 状態動詞が構成するケンタウロス名詞句は状態を表わすわけで, この継続的動作と状態とは互いに排除し合うというのである。状態動詞は反復的にはなれない。それに対して変化動詞におい

ては、定の本来的目的語は反復的読みという形での動作の意味を妨げる。その場合、目的語は、反復的解釈を呼び起こす他の条件がないかぎり、単一の推移を表わすと言うのである。

推移 Overgang

*hendes læsen avisen

*deres drikken vinen

*hendes skriven en kronik

*deres drejen rattet

→ **動作 Aktivitet**

hendes læsen i avisen

deres drikken af vinen

hendes skriven på en kronik

deres drejen på rattet

一方、*„læse højt* や *„dreje frem og tilbage* のように様態の副詞を伴った、いわゆるユニット強勢を持つ抱合構造 (inkorporeringskonstruktion) においては、様態の副詞自体が継続的動作の構造を与えるのでケンタウロス名詞句を構成することが可能であると言う。

hendes læsen avisen højt <彼女が大きな声を出してその新聞を読むこと>

deres drejen rattet frem og tilbage <彼らがハンドルを前や後ろに回すこと>

上の *frem og tilbage* が継続的動作の構造を与えることは一目瞭然である。一方 *læse avisen højt* は *læse avisen* <その新聞を読む(=読み終える)> とは異なり、「読み終える」という行為の完了は表わしておらず、「大きな声をだして読む」という継続的動作を表わしており、この継続的動作の意味は *højt* <大きな声を出して> が与えたものと言えよう。

また *„drikke op* や *„skrive om* のような、推移の構造を形成する方向の副詞を伴った抱合構造においては、目的語が動作態様にまったく関わっていないので、この種の抱合構造が形成するケンタウロス名詞句は反復的であると解釈できると言う。

deres drikken vinen op hver gang <彼らがワインを毎回飲み干すこと>

hendes skriven bogen om <彼女がその本を書き直すこと>

以上が Hansen & Heltoft の説明である。他動詞の場合、確かに変化動詞の目的語が定であれ、不定冠詞を伴った名詞の未知形であれ、一度その行為が完了すると、その同じ対象に対して同じ行為を繰り返すことはふつうはないであろう。例えば、*hun skriver en kronik/kronikken* <彼女はある特別記事/その特別記事を書く(=書き上げる)> において、彼女が書き上げた後に再び同じ特別記事を書くことはふつうの状況では考えられない。つまり、この意味において本来的な目的語をとる変化動詞から派生した *-en* 動詞的名詞はケンタウロス名詞句を構成できないというのは事実であろう。一方、§ 3.1, § 3.2 で見たように、本来的な目的語をとる動詞は前置詞 *af* を介して [*-en* 動詞的名詞 + *af* + 目的語] の構造を作ることができるし、さらにいくつかのものは擬似ケンタウロス名詞句を作ることができ

ることから, skrive に関しても hendes skreven af kronik/kronikken と言えるのではないだろうか. 今回のコーパスを用いた調査でも, 出現数は少ないとはいえ, 他動詞の変化動詞の例があった.

- 98) Romanen forsøger at udvide vampyrsymbolikken til også at udtrykke industrialismens og imperialismens opslugen af det førindustrielle samfund. (Korpus 90)

↔ industrialismen og imperialismen opsluger det førindustrielle samfund

〈その長編小説は吸血鬼の象徴性を産業主義と帝国主義が産業化以前の社会を飲み込むことを表現することにも広げようと試みている.〉

- 43) Statsministeren havde fået stillet en række spørgsmål i forbindelse med regeringens egenrådige inddragen af Danmark i De Forenede Europæiske Socialdemokratiers aktioner mod Østrig ... (Korpus 2000)

↔ regeringen inddrager Danmark egenrådigt i De Forenede Europæiske Socialdemokratiers aktioner mod Østrig ...

〈首相は政府が独断でデンマークをオーストリアに反対するヨーロッパ社会民主党連合の諸行動に巻き込むことに関連して多数の質問を受けていた...〉

上の例文 (98) の opslugen や (43) の inddragen は変化動詞で推移を表わすが, 反復は表わさない. つまりこれら 2 つの -en 動詞的名詞の派生素素 -en も (反復を含めた) 継続を表わさないわけである. このことより, Hansen & Heltoft の「形態素 -en は継続的動作 (durativ aktivitet) を表わす」(本稿 p. 93, § 4 の冒頭) および「派生素素 -en が継続的意味を表わす」(本稿 p. 94, § 4.1 の初め) という記述は次のように変更されるべきであろう.

ケンタウロス名詞句を構成する -en 動詞的名詞の派生素素 -en は継続的意味を表わし, 推移的意味を表わすことはない.

3 番目で最後のグループは継続性に関する制限であると Hansen & Heltoft (1994: 66-67) は言う.

非継続的動作 Non-durativ aktivitet → 継続的動作 Durativ aktivitet

*deres slåen børnene

deres slåen på børnene

*din kysen pigen

din kysen på pigen

*din røren dørkarmen

din røren ved dørkarmen

この場合でも継続性が可能であれば目的語が許されると言い, その例が slå であるが, røre ではまず不可能であると言う.

deres slåen børnene til plukfisk 〈彼らが子供たちをさんざん打ちのめすこと〉

*din røren dørkarmen

上の slåen を含む例は, 彼らが子供たちをさんざん打ちのめして plukfisk 「魚肉を

バラバラにほぐして作る魚料理」状態にしてしまうという推移が何度も起こることを意味する反復的文脈で可能となるのであろう。そうであるとする、このケンタウロス名詞句は „slå ~ til plukfisk” という抱合構造を内包しているものであり、既に見てきたように、抱合構造がケンタウロス名詞句を構成することが可能であるのは自明のことである。すなわち、上の slåen を含む例は、非継続的動作を表わす slå børnene がケンタウロス名詞句を構成する例とは言えないであろう。

5. おわりに

本稿ではコペンハーゲン大学の Erik Hansen とロスキレ大学の Lars Heltoft の -en 動詞的名詞とケンタウロス名詞句に関する記述 (Hansen & Heltoft 1994) を紹介してきた。両氏は動詞の結合値 (valens) の観点と動作態様 (aktionsart) の観点からケンタウロス名詞句を見事に分析している。これも、デンマーク語の動詞を動作態様の観点から分析する研究を近年展開してきているコペンハーゲン商科大学のロシア語学者・言語学者の Per Durst-Andersen とフランス語学者・言語学者の Michael Herslund の研究成果を背景にして初めて成し得たものと言えるであろう。

Hansen & Heltoft (1994) によって、ケンタウロス名詞句を構成する -en 動詞的名詞は（ほとんど）すべての動詞から派生できるのではなくて、（反復的なものも含めた）継続的動作を表わす動作動詞か、あるいは（反復的なものも含めた）継続的動作の読みが可能な動詞からしか派生されないことが明白となった。また、再帰代名詞以外の代名詞を目的語としたり、限定語の付く本来的な名詞を目的語とする他動詞から派生した -en 動詞的名詞はケンタウロス名詞句を構成することができないことも明白となった。このような他動詞は -en 動詞的名詞の後ろに [af + 目的語] を置いて、本稿で筆者が擬似ケンタウロス名詞句と呼んだ名詞句を構成することはできることも分かった。

ケンタウロス名詞句の動詞の特徴は（反復的なものも含めた）継続的動作であることから、§ 2.1 で示したようなデンマーク語 - 英語大辞典 DES に見られる英語訳の複数形（例えば *hans flakken om* = his wanderings など）も理解できると言えよう。また、コーパスで検索した結果、rasle などの擬音語や hviske などの音に関係する動詞の -en 動詞的名詞の出現数が多い印象を受けると § 1 で記したが、擬音語や音に関係する動詞は継続的動作そのものを表わすことからケンタウロス名詞句を構成する資格があることが十分理解できる。

ただ、本稿執筆にあたりデンマーク語のコーパスで検索した結果、限定語の付いた名詞を本来的な目的語とし、主節あるいは従位節中の述語動詞にも、そしてそれに対応する -en 動詞的名詞にも強勢がある例が、若干ではあるにせよ観察された (§ 3.4)。また、主節あるいは従位節中の述語動詞には強勢があるはずであ

るが、それに対応する -en 動詞的名詞には強勢がない例も、若干ではあるにせよ観察された (§ 3.5). これら 2 種のケースは Hansen & Heltoft (1994) の記述に反する例である。これらは単に標準語の規範から逸脱しているにすぎないのか、あるいは他に理由があるのか、今後は他動詞に集中して他の動詞について引き続きコーパスによる検索を続ける必要があろう。

(2004.11.23)

注

1. デンマーク語として正しくは *Du kan ikke li' (= lide) din mad* のように法助動詞 *kan* を入れて言わなければならないが、この例文では、フランス語訛りのたどたどしいスウェーデン語の雰囲気を出すために、そのデンマーク語訳として、外国人が話したどたどしいデンマーク語の典型的例である *Du ikke lide ...* という言い方を用いている。また、大阪外国語大学の同僚のデンマーク人教師 Bente Højlund 氏によると、多くのデンマーク人自身も外国人の話したどたどしいデンマーク語の真似をするときには *Du ikke lide ...* という言い方をするそうである。
2. 例文の出典を示す。Korpus 2000 とは Det Danske Sprog- og Litteraturselskab〈デンマーク国語・文学協会〉がインターネット上で無料公開しているデンマーク語コーパスである (<http://korpus.dsl.dk/korpus2000/indgang.php>). また同ホームページ上では Korpus 90 も公開されている。Korpus 2000 は 1998 年－2002 年に書かれた約 11 万のテキストから採録した 280 万語から成るコーパスである。同様に Korpus 90 も 280 万語から成るコーパスであり、1988 年－1992 年をカバーしており、Den Danske Ordbog のコーパスの一部である。Korpus 90 と Korpus 2000 の両方で近年の言語使用を反映させている。
3. ⇔ の印は、例文中のイタリック体にした名詞句の部分 *en piften ud mod dem* が定形動詞を持つ文 *Han pifter ud mod dem* に対応することを表す。
4. ケンタウロス名詞的語句の名称は Erik Hansen と Lars Heltoft (Hansen & Heltoft 1994) が最初に用いたのものであると Herslund (2002: 77) は指摘しているが、Hansen & Heltoft は「いわゆるケンタウロス名詞的語句」“de såkaldte kentauernominaler” としており、自分たちが命名したとも命名するとも言っていない。もっとも、Erik Hansen は 1978 (1977: 74) のコペンハーゲン大学の学生用のデンマーク語の文法書の中で -en 動詞的名詞が構成する名詞的語句の特徴を、前が名詞的従位統合体 (nominalhypotagmer) で、後ろが従位節や不定詞句のような構造を持つケンタウロス構造であるとしているので、やはり Erik Hansen がケンタウロス名詞句の名付け親である可能性は非常に高いのであるが。
5. 辞典の略号については本稿末の参考文献リストの辞書の項目を参照のこと。
6. 筆者は他の 3 名の研究者とともに見出し語数 1 万語強の「デンマーク語基本語彙集」の編纂・執筆中であるが、本稿ではこの見出し語の中の動詞約 2100 語につ

- いてコーパスで検索を試みた。「デンマーク語基本語彙集」は未だ一部しか公刊していないが、見出し語 A-F については間瀬ほか (1997-2004) を参照のこと。
7. ラテン語文法の用語で、受動態の形をして能動の意味を表す動詞を指す。デンマーク語では s-形動詞で能動の意味を表すものを指す。
 8. 最近では Christensen & Christensen (2004: 65) がスウェーデン語には見られない現象としてデンマーク語の -en 動詞的名詞およびケンタウロス名詞句について簡単に言及している。
 9. Hansen & Heltoft (1994) は、「ケンタウロスは非常に生産的で、常に新しいものが造られているが、特殊な場合にしか辞書には登録されない」としている。ここで彼らは、まずケンタウロス名詞的語句を「ケンタウロス」と省略している。そして最も重要なことは、彼らが「ケンタウロス (名詞的語句)」という名称を、時にはその名称通り「ケンタウロス名詞的語句」の意味で用いており、また時には「-en 動詞的名詞」の意味で用いていることである。この点は Herslund (2002) も同様である。
 10. 正書法辞典に登録されている -en 動詞的名詞を調べるには逆引き辞典の BO を用いた。
 11. 他のものは、kunnen <能力>, skelen <斜視>, viden <知識>, være <存在> などの正真正銘の名詞であったり、ikrafttræden, hensyntagen, tilbagetræden など対応する動詞 *ikrafttræde, *hensyntage, *tilbagetræde がないものである。
 12. “derimod kan de danne den substantiviske -s-form f. eks. «det er også den snakkens skyld»” (Wiwel 1901: 150, fodnote (1))
 13. “de kan sættes i tillægssald, når der ikke tilføjes andre sætningsled” (Mikkelsen 1975 (1911): 394)
 14. “men de danner aldrig verbal -s-form” (Wiwel 1901: 150, fodnote (1))
 15. Hansen & Heltoft は「文副詞的語句を置く場所」(sætningsadverbialplads) がないとしているが、例で用いられている副詞 ikke と altid は中域副詞ではあるものの文副詞ではないとする立場もある。その場合には、当該の箇所は「中域副詞的語句が置かれる場所」がないと解釈すべきであろう。ただし、ikke も altid も文副詞として扱うのは Hansen & Heltoft (cf. 未発表の *Grammatik over det Danske Sprog*, Kapitel 2. また Nimb (2004: 7) によると、同書 Kapitel 18 でも文副詞への言及があることが報告されている) はもとより、デンマーク語文法界では一般的なことのようにである (cf. Kristiansen et al. 1996: 114-115)。
 16. ここでも「-en 動詞的名詞は他の動詞的名詞と同様に」とされなければならない。
 17. これらの例はすべてコーパス (Korpus 2000, Korpus 90) から。
 18. 大阪外国語大学の同僚のデンマーク人教師 Bente Højlund 氏である。
 19. 残りの例文は以下のとおりである。
 - Op fra gulvet kom den sagte hvislen af sandet, der spredtes ind gennem den åbne dør. (Korpus 90)
 <開いているドアの隙間から入ってきて広がっている砂のシャーという柔らかな音が床から聞こえてきた。>
 - Den lette knitren af hendes silkekjole. (Korpus 2000)
 <彼女のシルクのワンピースが軽く触れるサラサラという音。>

- *denne knitren af deres knoer og håndrygge* (Korpus 90)
 <彼らの指の関節と手の甲が [耳たぶに] こすれるこの音>
 - *den svageste rumlen af torden-vejret* (Korpus 2000)
 <雷がほんのかすかに鳴る音>
 - *summen af stemmerne fra festen* (Korpus 2000)
 <パーティーから聞こえてくるうなるような声>
 - *slutscenens vekslen af korets jubel og Davids klagesange* (Korpus 2000)
 <最後のシーンでのコーラスの歓喜と David の哀歌が交互に続くこと>
20. この at は従位節である at-節を導く接続詞を意図している。したがって *klaprer* は現在形である。
21. 例えば '*spiller* に見られる記号 ' は強強勢記号であり、この記号の直後に来る音節に強強勢があることを示す。
22. 例えば *。spiller* に見られる記号 *。* は弱強勢記号であり、この記号の直後に来る音節に強強勢がないことを示す。
23. この場合の *katten* は特定の猫を指すのではなく、*。slå katten af tønden* 全体が慣用表現的な決まった言い回しであるからユニット強勢になっているとも考えられる (cf. Scheuer 1995: 14) し、樽の中にいた猫を樽の外に出すという「転地」“translokation”を表わすのでユニット強勢になっているとも考えられる (cf. Scheuer 1995: 176-179, 185-186)。これとは別に *katten* が特定の猫を指す次のような例文 *Jens 。slog Oles kat af tønden i går*。<Jens は昨日 Ole の猫を樽から叩き出した。> も「転地」を表わすので *slog* には強勢はない。しかしこれに対応するケンタウロス名詞句 *Jens' 。slåen Oles kat af tønden* は昨日 1 回だけの行為であるので、後述する理由から、軽蔑的な意味にでも用いない限りは不可能なはずである。なお、目的語が既知形であるにもかかわらず、「転地」を表わす構造であり、かつ繰り返して起こる事柄であるためにケンタウロス名詞句になっている例が 1 例あった。
- “Du skal tage med”, siger han. Igen *denne fordømte 。kasten* *ansvaret på mig*. (Korpus 90) ↔ Han *。kaster* *ansvaret på mig*.
 <「君は一緒に行くのだ」と彼は言う。また、このいまいましい、私に責任を投げかけること。>
24. *aktionsart* は川島ほか (1994)、国松ほか (1990 (1985))、富山 (1991)、フォックス (1993) では「動作の様態を表わす」ものとして <動作態様> という訳語が付されている。しかしこの術語およびその訳語は最も適切なものであるとは言えないであろう。というのも、誰の記述を見ても *aktionsart* の中には *state* が含まれると思うが、*state* を *aktion* のひとつとするのには抵抗がある。また、デンマーク語の動詞の *aktion* の *art* <態様> あるいは種類を分類して Durst-Andersen & Herslund (1996a) は 1) *state* を表わすもの、2) *activity* を表わすもの、3) *action* を表わすものの 3 種類に分類しているが、*aktion* を分類した中に *action* があるのは具合が悪い。また、訳語の観点から見ても、動作態様を分類した中に 2) *activity* を表わす動作動詞があることになり、これも具合が悪い。戸川ほか (1992) では「動詞が表現する様態 (完了・継続・推移・反復など)」としている。この説明に基づき、訳語に関しては <動詞様態> とするのが最も良いと筆者には思えるが、本稿では取

えてドイツ語辞典の多数に挙げられている〈動作態様〉を用いることにする。

25. 静態動詞とも言う。
26. Hansen & Heltoft は *aktivitetsverber* という用語を Per Durst-Andersen から借用している (Hansen & Heltoft 1994: 62)。
27. Hansen & Heltoft (1994) は「推移動詞」と「変化動詞」という術語を両方とも用いて記述している。
28. Hansen & Heltoft (1994: 61ff.) は以降の議論の中で、「動的動作動詞」と「動的推移動詞」の「動的」の部分省略して単に「動作動詞」および「推移動詞」と呼んでいる。
29. 例えば, Durst-Andersen & Herslund (1996a: 70) によると, フランス語では〈行く〉という意味の変化動詞は *aller* といい, 〈歩く〉という意味の動作動詞は *marcher* といい, これら2つの動作態様は語彙化された2つの異なる動詞によって表わされているが, デンマーク語では動詞 *gå* がこれら2つの動作態様を持っており, これら2つの動作態様は語彙化されていない。しかし, 例えば, 異なる完了助動詞を用いて表わされる現在完了形におけるように, 文法的・統語的にこれら2つの動作態様は区別される。

Han *er* gået. 〈彼は行って, ここにいない。〉(変化動詞)

Han *har* gået hele vejen. 〈彼はずっと歩いてきた。〉(動作動詞)

30. Hansen & Heltoft (1994) は, *opvågnen* は副詞 *op* と *vågnen* との合成語であると考えている (cf. Hansen 1978 (1977): 27)。
31. Durst-Andersen & Herslund (1996b) について Hansen & Heltoft (1994) は Durst-Andersen & Herslund (1994) としているが, これの公刊は1996年である。このほかに Hansen & Heltoft (1994) は1994 ms. *The Syntax of Danish Verbs: Lexical and Syntactic Transitivity* も参考にしているが, これは公刊する前の原稿であるから本稿の筆者は見る機会がなかったが, 代わりにこれを公刊したものと思われる Durst-Andersen & Herslund (1996a) を参考にした。筆者は, また Herslund (1998) も参考にした。
32. Hansen & Heltoft のこの追加によって, Durst-Andersen & Herslund の動作態様に関する主張は格段に理解しやすくなったと言えるであろう。
33. Durst-Andersen & Herslund (1996b: 107) を参考にすると, 変形動詞と動作動詞の両方の動作態様を有する動詞は, 以下のように他動詞と自動詞構造とに分けて例示できる。

	action	activity
transitive:	Han 'skriver et 'brev.	
intransitive:		
1. prepositional		Han 'skriver på et 'brev
2. incorporated		Han [o'skriver 'brev]
3. Ø-object		Han 'skriver

つまり, 前置詞を介在する目的語構文はもとより, 名詞の基本形を目的語とする抱合構造も自動詞的である。さらに, 例えば *more sig* 〈楽しむ〉のような再帰代名詞を目的語とする再帰動詞もまた全体としては自動詞的である。

Appendix 1

Korpus 2000 および Korpus 90 における -en 動詞的名詞の出現数

-en-vb.subst. = verbalsubstantiv på -en: -en 動詞的名詞

forekomst = forekomst af verbalsubstantivet i Korpus 2000 og Korpus 90 : Korpus 2000

および Korpus 90 における -en 動詞的名詞の出現数

infinitiv = forekomst af infinitivformen: 不定詞形の出現数

-en-vb.subst.	forekomst	infinitiv	-en-vb.subst.	forekomst	infinitiv
1. adlyden	1	126	45. brølen	13	56
2. affinden	4	240	46. bugnen	2	9
3. afståen	1	248	47. bukken	7	184
4. aften	24	158	48. buldren	40	33
5. afventen	19	368	49. bumpen	2	13
6. afvigen	1	49	50. byden	1	1434
7. ageren	30	286	51. bytten	3	443
8. analyseren	1	605	52. bæven	41	6
9. angriben	1	507	53. bøjen	2	594
10. appelleren	1	351	54. bølgen	7	38
11. arbejden	5	9277	55. bønfolden	1	11
12. argumenteren	4	460	56. bøsven	4	30
13. bagen	1	320	57. citeren	1	316
14. baksen	6	50	58. dansen	3	1280
15. balanceren	1	157	59. dasken	1	18
16. banden	15	53	60. deltagen	3	4192
17. banken	30	560	61. demonstreren	1	619
18. basken	4	21	62. dirigeren	2	232
19. begriben	2	186	63. dragen	5	1167
20. begynden	1	4012	64. drejen	2	1297
21. beregningen	1	390	65. drikken	2	2214
22. berigen	1	102	66. drillen	1	247
23. beståen	40	1003	67. driven	2	1582
24. betragten	2	1171	68. drukken	1	313
25. bevægen	1	1908	69. dryppen	4	254
26. biden	3	541	70. drømmen	2	1012
27. binden	1	734	71. drønen	4	84
28. bjæffen	10	16	72. duften	3	80
29. bladren	9	40	73. dulmen	1	85
30. blanden	2	1862	74. dundren	7	6
31. blinken	8	206	75. dunken	27	60
32. blussen	2	97	76. dvælen	14	94
33. blænden	1	45	77. dykken	1	256
34. blæsen	1	384	78. dækken	1	1759
35. boblen	4	57	79. døen	1	2396
36. boren	4	284	80. efterleven	1	182
37. bortfalden	1	69	81. eksisteren	1	478
38. bragen	9	20	82. endevenden	1	26
39. brokken	1	170	83. erfaren	2	196
40. brummen	72	18	84. erindren	4	291
41. brusen	69	45	85. falden	9	4285
42. bryden	1	2168	86. falmen	1	11
43. brækken	3	262	87. famlen	14	40
44. brænden	10	699	88. fantasieren	6	70

-en-vb.subst.	forekomst	infinitiv	-en-vb.subst.	forekomst	infinitiv
89. faren	4	446	144. gestikuleren	11	8
90. fastholden	49	49	145. gispen	2	54
91. fejen	1	228	146. givn	7	25529
92. fejlen	1	78	147. gjalden	1	20
93. fejren	1	1025	148. gliden	4	1501
94. fisen	3	27	149. glimten	3	32
95. flagren	7	33	150. glitren	4	11
96. flakken	8	38	151. gloen	2	167
97. flimren	14	32	152. gnaven	4	115
98. flintren	1	8	153. gniden	1	188
99. flippen	1	36	154. gnistren	1	15
100. flirten	6	76	155. gnubben	2	31
101. flyden	2	428	156. gransken	7	83
102. flygten	1	872	157. griben	4	2171
103. flytten	20	3838	158. grinen	8	774
104. fløjten	18	109	159. grublen	8	29
105. fnisen	78	69	160. grynten	15	9
106. fnysen	4	9	161. græden	6	1120
107. fokuseren	6	615	162. gumlen	3	37
108. forbinden	1	319	163. gurglen	14	5
109. forbliven	66	696	164. gylpen	5	9
110. forcere	3	143	165. gyngen	2	49
111. fordyben	1	201	166. gysen	84	88
112. forgåen	3	65	167. gætten	1	611
113. forhandlen	1	1516	168. gøen	44	86
114. forholden	22	1722	169. gøre	116	41967
115. forladen	4	2470	170. gåen	25	41124
116. formåen	357	60	171. hagen	1	38
117. fornemmen	1	1160	172. hakken	5	107
118. forringen	1	203	173. halten	5	37
119. forsken	1	300	174. handlen	32	2468
120. forstummen	1	57	175. hejsen	1	71
121. forsvinden	227	1382	176. hengiven	1	78
122. fortaben	1	62	177. hersken	2	326
123. fortællen	10	8658	178. hilsen	3	732
124. forundren	2	13	179. hiven	8	507
125. fotograferen	1	333	180. holden	4	20542
126. frembring	1	323	181. hoppen	12	609
127. fremhæven	1	581	182. hosten	18	148
128. fremtræden	146	121	183. hoveren	3	22
129. frysen	1	271	184. huggen	1	288
130. fråden	1	2	185. hulken	54	38
131. fumlen	5	26	186. hvidten	1	6
132. funderen	1	97	187. hvilen	1	797
133. fungeren	1	2642	188. hvinen	21	18
134. funklen	2	22	189. hvirvlen	2	33
135. fægten	4	36	190. hvirken	182	155
136. føjen	1	298	191. hvislen	37	10
137. følen	2	3538	192. hvæsen	28	17
138. følgen	4	6973	193. hyggen	1	303
139. føren	2	6334	194. hyklen	1	8
140. gaben	16	76	195. hylen	44	104
141. galen	2	38	196. hælden	3	379
142. galoperen	1	24	197. hængen	4	2065
143. genopliven	2	183	198. hærgen	136	51

-en-vb.subst.	forekomst	infinitiv	-en-vb.subst.	forekomst	infinitiv
199. hævden	2	821	254. knytten	1	448
200. håben	1	1554	255. knælen	1	31
201. iagttagen	2	382	256. koblen	1	281
202. ignoreren	2	245	257. kogen	4	826
203. improviseren	1	82	258. kommanderen	4	46
204. indblanden	15	3	259. kommen	26	37539
205. inddragen	1	804	260. koncentreren	1	1573
206. indgåen	4	2496	261. kontrolleren	1	1341
207. indordnen	1	124	262. kradsen	18	135
208. indskriven	1	67	263. kravlen	2	506
209. indstuderen	1	14	264. kredsen	17	83
210. indtagen	1	718	265. kriblen	36	27
211. indtræden	209	140	266. kryben	6	294
212. indtræffen	1	77	267. krydsen	2	373
213. insistere	74	159	268. krympen	1	17
214. isnen	8	5	269. krængen	1	65
215. jagen	10	327	270. kræven	1	2455
216. jamren	61	65	271. kunnen	405	125184
217. jongleren	8	65	272. kurren	12	6
218. jublen	1	160	273. kvidren	25	10
219. kalden	48	3873	274. kværnen	7	13
220. kalkuleren	1	27	275. kyssen	2	544
221. kasten	9	2053	276. kælen	5	182
222. kiggen	13	2717	277. køben	1	7958
223. kikken	2	368	278. køren	4	7421
224. kimen	29	31	279. laden	124	14434
225. klagen	11	722	280. larmen	3	61
226. klamren	6	88	281. laven	1	13548
227. klappen	15	310	282. leen	2	571
228. klapren	19	28	283. leden	5	1816
229. klasken	1	41	284. legen	6	2361
230. klatren	4	234	285. leven	9	9424
231. klemmen	1	162	286. logren	5	19
232. klikken	8	217	287. lokken	2	815
233. klinken	1	15	288. luden	1	1
234. klippen	1	473	289. lugten	1	424
235. klirren	45	28	290. lukken	4	2912
236. klistren	1	90	291. luren	7	100
237. klukken	25	14	292. lynen	2	39
238. klyngen	1	43	293. lytten	30	2316
239. klynken	32	67	294. lyven	1	292
240. klæben	1	69	295. læggen	7	7641
241. kløen	10	143	296. læren	1	6774
242. knagen	19	28	297. læsen	3	7180
243. knalden	2	79	298. løben	12	3654
244. knasen	21	21	299. malen	2	939
245. knejsen	4	12	300. manen	1	121
246. kneppen	1	159	301. manipulere	2	230
247. knipsen	1	27	302. masen	26	146
248. knirken	41	25	303. medvirken	678	1235
249. knitren	32	13	304. melden	1	1725
250. knoklen	3	108	305. modtagen	3	2084
251. knugen	5	29	306. modvirken	1	242
252. knurren	47	42	307. monterer	1	120
253. knusen	1	219	308. mumlen	128	72

-en-vb.subst.	forekomst	infinitiv	-en-vb.subst.	forekomst	infinitiv
309. myldren	1	31	364. refereren	1	183
310. mørknen	1	15	365. reflekteren	2	143
311. måben	11	19	366. regeren	7	220
312. nikken	5	294	367. rejsen	1	4441
313. nynnen	18	82	368. renden	4	348
314. nysen	16	34	369. retten	1	1845
315. nægten	1	473	370. ringen	16	2085
316. nærmén	1	522	371. rislen	44	40
317. nølen	16	9	372. riven	2	793
318. nåen	1	6934	373. roden	3	321
319. omsluttén	1	45	374. rokken	6	265
320. opgíven	4	1654	375. roteren	2	78
321. opslugén	1	84	376. rugén	2	35
322. optræden	987	1385	377. rullen	9	543
323. opvarten	1	19	378. rumlen	56	22
324. overholdén	1	844	379. rumsterén	13	39
325. overleven	13	1810	380. rungen	6	24
326. overtræden	1	151	381. rusken	3	101
327. overvågen	9	390	382. rykken	6	929
328. pakken	1	626	383. rynken	1	52
329. passen	3	4051	384. rysten	58	412
330. pegén	13	980	385. rækken	3	750
331. piben	3	41	386. rødmen	55	98
332. piblen	1	39	387. rømmén	10	88
333. piften	25	36	388. råben	106	1066
334. pilen	1	8	389. råden	1	667
335. pillén	4	455	390. samvirken	1	4
336. pippen	8	10	391. sansén	1	90
337. piskén	3	136	392. satsén	2	1606
338. pjaskén	4	9	393. saven	1	67
339. plagen	3	136	394. savlen	6	16
340. plaskén	25	33	395. scoren	1	846
341. plejen	1	427	396. seen	9	13465
342. pludren	34	24	397. sidden	4	5668
343. plumpen	1	14	398. sigén	5	33396
344. plyndren	1	86	399. silen	7	21
345. praktisérén	1	148	400. sitén	56	45
346. prikken	19	200	401. sjaskén	1	11
347. protesterén	2	461	402. sjippen	1	13
348. prusten	8	14	403. sjusken	1	26
349. prutten	5	41	404. skabén	31	9268
350. prædiken	242	86	405. skeén	11	8581
351. prøven	5	5139	406. skelen	105	116
352. puffén	7	44	407. skelnen	130	975
353. pumpén	4	232	408. skiften	85	1974
354. puslén	33	77	409. skimten	1	265
355. pusten	16	360	410. skinnen	2	176
356. ragen	3	151	411. skotten	2	9
357. rakken	1	27	412. skovlén	1	42
358. ramlén	2	57	413. skraben	25	230
359. rangerén	1	26	414. skramlén	44	20
360. rappén	4	21	415. skrantén	5	19
361. rasén	42	56	416. skrattén	19	7
362. raserén	3	16	417. skrigen	56	410
363. raslén	65	99	418. skriven	5	7264

-en-vb.subst.	forekomst	infinitiv	-en-vb.subst.	forekomst	infinitiv
419. skruen	1	408	474. sprutten	2	12
420. skræmmen	1	505	475. sprællen	1	23
421. skræppen	11	7	476. sprøjten	1	209
422. skræven	1	21	477. spænden	3	371
423. skrålen	4	22	478. spørge	25	5250
424. skrånen	1	4	479. stammen	56	264
425. skubben	22	639	480. stampen	5	31
426. skulen	4	32	481. stemmen	1	2779
427. skuren	1	23	482. stigen	4	1875
428. skurren	9	5	483. stikken	8	1269
429. skvulpen	7	14	484. stillen	1	5971
430. skyden	4	1477	485. stimlen	1	11
431. skælden	5	234	486. stirren	29	181
432. skælven	51	61	487. stivnen	12	105
433. skæmmen	1	12	488. strammen	1	469
434. skæren	7	1644	489. strejfen	4	76
435. skæven	3	76	490. striden	2	78
436. sladren	3	59	491. strikken	1	147
437. slentren	4	39	492. stritten	1	103
438. sliden	2	201	493. stryge	2	286
439. slikken	2	415	494. stræben	216	162
440. slingren	11	12	495. strækken	2	488
441. slubren	4	21	496. strøen	1	51
442. sludren	4	84	497. strømmen	4	279
443. slumren	1	23	498. studeren	3	1307
444. slutten	3	1274	499. styrken	1	2373
445. slæben	3	470	500. styrtten	1	342
446. slækken	2	129	501. støden	1	475
447. slåen	8	6472	502. stønnen	137	125
448. smasken	16	12	503. støven	1	71
449. smiden	1	1041	504. ståen	4	12113
450. smigren	1	19	505. sugen	4	309
451. smilen	3	572	506. sukken	9	63
452. smækken	14	182	507. summen	139	29
453. smælden	2	23	508. surmulen	2	9
454. småløben	2	18	509. susen	128	100
455. snakken	29	3780	510. sutten	3	182
456. snerren	30	13	511. svajen	6	42
457. snorken	66	26	512. svaren	1	3149
458. snublen	7	106	513. sviden	2	25
459. snurren	43	164	514. svien	27	94
460. snusen	3	168	515. svigten	15	349
461. snøften	18	16	516. svingen	5	511
462. sorteren	1	281	517. svirren	8	17
463. sortnen	1	7	518. svulmen	7	74
464. soven	2	2243	519. svælgen	9	47
465. sparken	2	448	520. sværge	3	66
466. spejden	3	38	521. sværmen	2	8
467. spekuleren	2	519	522. svæven	15	179
468. spillen	18	9358	523. syden	16	25
469. spinden	13	93	524. syngen	12	1951
470. spiren	1	80	525. synken	2	433
471. sporen	1	432	526. syslen	3	15
472. spreden	1	637	527. sælgen	1	5095
473. springen	3	1278	528. sætten	9	13425

-en-vb.subst.	forekomst	infinitiv
529. søgen	486	4398
530. sørgen	1	2843
531. taben	1	1422
532. tagen	3	30004
533. takken	1	904
534. talen	8	10459
535. tappen	1	69
536. telefoneren	3	49
537. tiggen	1	132
538. tikken	19	22
539. tiltagen	2	32
540. tindren	3	8
541. tissen	1	281
542. tordnen	2	24
543. trampen	30	86
544. trasken	1	30
545. traven	6	65
546. trillen	3	153
547. trippen	8	24
548. trodsen	2	103
549. trommen	15	42
550. truen	2	634
551. tryglen	16	19
552. trykken	33	767
553. træden	4	1994
554. trækken	15	5839
555. trængen	2	1043
556. trøsten	1	466
557. tuden	42	134
558. tumlen	7	122
559. turden	1	2441
560. tvingen	1	1092
561. tyggen	5	176
562. tyssen	2	13
563. tællen	2	593
564. tænken	15	8680
565. tørren	1	533
566. tørsten	1	14
567. tøven	442	136
568. udbreden	1	348
569. uddyben	1	327
570. uddøen	26	78
571. udebliven	11	39
572. udforsken	1	315
573. udskiften	1	365
574. udspørgen	14	54
575. udstillen	2	305
576. udstrækken	2	47
577. udtalen	1	1371
578. udvekslen	1	395
579. ulmen	2	24
580. underkassen	1	132
581. underlæggen	2	64
582. undersøgen	4	3124
583. undertrykken	1	241

-en-vb.subst.	forekomst	infinitiv
584. undren	657	1283
585. undvigen	2	82
586. vaju	2	10
587. vaklen	74	115
588. vandren	12	455
589. varen	1	1091
590. vedbliven	1	69
591. vekslen	104	187
592. venden	13	4339
593. venten	162	4907
594. vibreren	4	40
595. viden	6351	5936
596. vidnen	1	259
597. viften	1	91
598. vigen	5	369
599. vildleden	1	63
600. villen	1	*70287
601. vimsen	1	5
602. vinken	15	222
603. virken	3	2776
604. virren	2	10
605. visken	1	38
606. visnen	4	78
607. vogten	1	164
608. vrægen	1	75
609. vralten	1	22
610. vriden	5	228
611. vrikken	4	45
612. vrimlen	1	16
613. vrinsken	17	8
614. vrissen	2	12
615. vrælen	3	19
616. vrængen	6	17
617. vrøvlen	1	7
618. vægren	2	14
619. vækken	1	850
620. vælgen	3	5835
621. væren	150	163018
622. værnen	2	341
623. vågen	1	26
624. æden	1	429
625. ælten	1	51
626. ævlen	1	12
627. ødslen	3	23
628. ønsken	1	2025
629. åbnen	2	2404

* ville は不定詞形と過去形が混ざった数値であり、このうちのほとんどが過去形であると思われる。いずれにしても ville が使用頻度の高い基本動詞であることは周知のことである。

Appendix 2

コーパスにおける -en 動詞的名詞の出現数トップ 40

-en-vb.subst.	forekomst	infinitiv	-en-vb.subst.	forekomst	infinitiv
1. søgen	486	4398	21. snorken	66	26
2. stræben	216	162	22. raslen	65	99
3. hvirken	182	155	23. jamren	61	65
4. venten	162	4907	24. rysten	58	412
5. summen	139	29	25. rumlen	56	22
6. stønnen	137	125	26. sitren	56	45
7. hærgen	136	51	27. skrigen	56	410
8. mumlen	128	72	28. stammen	56	264
9. susen	128	100	29. rødmen	55	98
10. laden	124	14434	30. hulken	54	38
11. gøren	116	41967	31. skælven	51	61
12. råben	106	1066	32. fastholden	49	49
13. skelen	105	116	33. kalden	48	3873
14. vekslen	104	187	34. knurren	47	42
15. gysen	84	88	35. klirren	45	28
16. fnisen	78	69	36. gøen	44	86
17. insistieren	74	159	37. hylene	44	104
18. vaklen	74	115	38. rislen	44	40
19. brummen	72	18	39. skramlen	44	20
20. brusen	69	45	40. snurren	43	164

Verbalsubstantiver på -en og kentauernominalfraser i dansk

Toshihiro Shintani

Resumé

- 1) - Du ikke li' din mad, spurgte han på svensk med en tydelig fransk accent. -
Det har jeg ingen ide om, da jeg endnu efter 5 *kvarters venten* ikke har fået
noget mad, svarede jeg ... (Korpus 2000)

Når man som udlænding har læst dansk i tilstrækkelig mange år, mærker man at man
nogle gange i tidens løb er stødt på denne type verbalsubstantiv på -en som *venten* i
nominalet 5 *kvarters venten* i eksempel (1), men det er absolut ikke mange gange der
er tale om, men kun sjældent, meget sjældnere end ved andre verbalsubstantiver

som dem på *-(n)ing*, *-else* (eller *-sel*) og *-eri*. Man ser følgelig lige så sjældent nominalhypotagmet af typen *5 kvarters venten*.

7) *hans ivrige ringen med dørklokken* (Korpus 2000) [↔ han ringer ivrigt med dørklokken]

[Numrene på eksemplerne i dette resumé svarer til dem i selve denne artikel.]

9) *komponistens pillen ordene fra hinanden* (Korpus 2000) [↔ komponisten piller ordene fra hinanden]

Denne type verbalsubstantiv på *-en* kan desuden have en bestemmer og adjektiv til venstre for sig og et eller to objekter, et prædikativ eller adverbialer e.l. til højre for sig: Det vil sige at denne som kerne kan indgå i et nominalhypotagme hvis venstre del er nominal og højre del er verbal. Denne type nominalhypotagme, der har både nominalt og verbalt træk, støder man endnu sjældnere på end på nominalhypotagmet der kun har en nominal del som *5 kvarters venten* i eksempel (1).

Verbalsubstantivet på *-en* kan ifølge Karker (1992: 83, 1996: 72) dannes af alle verber, mens ODS (bd.1: XXXIII) og Diderichsen (1976 (1946): 81) siger at den kan dannes af næsten alle verber. Da disse typer nominalhypotagmer med verbalsubstantiv på *-en* forekommer meget sjældent, har man som udlænding svært ved at danne noget billede af hvilke verber man kan aflede denne type verbalsubstantiv af, så jeg har prøvet at undersøge forholdene ved hjælp af Korpus 2000 og Korpus 90. I øvrigt er jeg for tiden ved med tre andre forskere at lave en lille dansk-japansk ordbog med godt 10.000 opslagsord, af hvilke 2.100 er verber. Jeg har nemlig kigget på forekomster af verbalsubstantiver på *-en* afledt af disse grundlæggende 2.100 verber i korpuserne. Resultatet er vist i Appendix 1 'Forekomster af verbalsubstantiv på *-en* i Korpus 2000 og Korpus 90' og Appendix 2 'Forekomster af verbalsubstantiv på *-en* i korpuserne, top 40'.

Undersøgelsen har vist at det kun er af 630 ud af 2.100 verber der er observeret forekomster af verbalsubstantiv på *-en*. Af de 630 viser de mest grundlæggende verber som fx *sige* og *tage* hhv. 5 og 3 forekomster af verbalsubstantiv på *-en*, mens onomatopoietika som fx *summe*, *suse*, *brumme*, *bruse* og *rasle* og verber der har noget med lyd at gøre, som fx *hviske*, *stønne*, *mumle*, *råbe*, *fnise*, *skrige* og *hyle* viser en del forekomster, dog slet ingen forekomster af de grundlæggende verber som fx *blive*, *bo*, *bringe*, *bære*, *eje*, *finde*, *flyve*, *flyde*, *gide*, *glemme*, *have*, *hente*, *ligge*, *regne*, *ryge*, *røre*, *sende*, *sne*, *spise*, *tro* og *vaske*. Således kommer man til at tvivle på at det er (næsten) alle verber der kan afledes verbalsubstantiver på *-en* af. Møller (1945: 24) skriver også at der slet ikke eller næsten ikke dannes verbalsubstantiver på *-en* af disse verber:

(i) Verber med præfikser som fx an-, be-, for-: *andrage*, -*gaa*, -*komme*, -*mærke*, -*rette*, -*se*; *bebo*, -*bygge*, -*byrde*, -*drage*, -*døve*, -*daare*, -*frygte*, -*fri*, -*hage*, -*høve*; *forbavse*, -*bryde*, -*drage*, -*ene*, -*ny* osv.

(ii) Deponente verber: *flokkes*, *kaldes*, *synes*, *tækkes* osv.

(iii) Andre verber som fx *ane*, *døje*, *gavne*, *hedde*, *kende*, *savne* osv.

Møller skriver dog ikke hvorfor, og korpusundersøgelsen viser ikke så få forekomster af *forgåen*, *forholden*, *forladen* og *fortællen*, så skønt denne Møllers begrænsning kan være et vink, kan den ikke føre til en hel opklaring af spørgsmålet.

Sikkert på grund af ret sjældne forekomster af verbalsubstantiv på -en og nominalhypotagmer som denne som kerne indgår i, havde man ikke haft nogen dansk grammatik for udlændinge der behandlede denne type verbalsubstantiv og nominalhypotagmer, indtil Herslund (2002: 77-78) nævnte dem, dog meget kort, i sin deskriptive danske grammatik på engelsk for udenlandske forskere. Heller ikke i dansk grammatiks historie var de rigtig behandlet indtil Erik Hansen & Lars Heltofts storartede artikel “Kentauernominaler i dansk” (1994). Når man læser denne artikel, bliver man helt klar over at det ikke er alle verber det drejer sig om. Denne min artikel har derfor som formål at præsentere Hansen & Heltofts ovennævnte artikel for japanere der læser eller studerer dansk, evt. med mine kommentarer eller tilføjelser.

I dette resumé på dansk behøver jeg vel ikke at gengive fuldstændigt hvad Hansen & Heltoft skriver i deres artikel – man henvises ellers til selve deres artikel –, men blot at nævne hvad mine eventuelle kommentarer eller tilføjelser går ud på.

I deres artikel kalder Hansen & Heltoft sådan et nominalhypotagme som *hendes irriterende blanden tingene sammen* for et *kentauernominal* eller forkortet *kentauer*. Man skal dog være opmærksom på at Hansen & Heltoft også kalder verbalsubstantivet på -en for *kentauer*. Det vil sige de bruger betegnelsen *kentauer* snart for nominalhypotagmet, snart for verbalsubstantivet, hvilket kan være ret forvirrende og misvisende. Desuden vil jeg for det meste behandle nominalhypotagmet som *hendes irriterende blanden tingene sammen* på linje med substantivet, altså lige som en ordklasse, men ikke som et sætningsled som et nominal, så jeg har valgt at kalde denne type nominalhypotagme for en *kentauernominalfrase*.

Kommentarer eller tilføjelser til Hansen & Heltofts artikel

(A) Genitivformen af verbalsubstantivet på -en

Hansen & Heltoft (1994: 58) skriver under ‘2. Morfologi’: “De har ingen genitivform og -funktion”, men Wiwel (1901: 150, fodnote (1)) skriver: “derimod kan de danne den substantiviske -s-form f.eks. «det er også den snakkens skyld»”.

Mikkelsen (1975 (1911): 394) skriver også: “de kan sættes i tillægssald, når der ikke tilføjes andre sætningsled” og anfører disse eksempler:

denne sværmens vedvaren

for denne meningsløse regerens skyld

Jeg kan også vise nogle, dog få, eksempler på genitivformen fra korpuserne:

18) at lide og at miste blev *al vor levens* sum (Korpus 2000)

19) Du er min gud og skaber af alle guder, som du har formet af åndens skønhed i *din søgens* arbejde og kamp! (Korpus 90)

20) Således fortæller sproget ud over *den filosoferende tænken*s grænser, og eventuelt om disse grænser. (Korpus 90)

Eftersom nominalfraserne med genitivformen af verbalsubstantivet på *-en* ikke kan have verbal del til højre for verbalsubstantivet, kan man måske ikke længere kalde nominalfraserne for kentauernominalfraser.

(B) Passivformer af verbalsubstantivet på *-en*

Hansen & Heltoft (1994: 58) skriver: “Deponente verber har ingen modsvarende kentauer: *længesen, *skændesen”. Det kan desuden nemt forestilles at verber i *s*-passiv heller ikke kan danne verbalsubstantiv på *-en*. Når Wiwel (1901: 150, fodnote (1)) skriver: “men de danner aldrig verbal *-s*-form”, dækker hans verbale *-s*-form vel både deponente verber og verber i *s*-passiv. Det er også svært at forestille sig at *blive*-passiven danner verbalsubstantiv på *-en*, for der er ingen forekomst af *bliven* i korpuserne, derfor ingen *bliven* + *præteritumparticipium*.

(C) Pseudo-kentauernominalfraser

Hansen & Heltoft (1994: 59) skriver under ‘3. Syntaks’: “Kentauerne viser i øvrigt affinitet til verbalsubstantiverne ved at kunne tilknytte subjekt og objekt i en *af*-forbindelse” og viser eksempler med subjekter:

vi hørte *klapren af fødder*

klirren af glas og flasker trængte ud gennem vinduet

der lød *munlen af mange mennesker*

sammenstimlen af nysgerrige må forhindres

Disse fire eksempler får umiddelbart én til at tro at ubestemte subjekter kræver denne konstruktion med *af*, mens bestemte subjekter kræver genitivforbindelser:

vrinsken af heste vs. *hestenes vrinsken*

klirren af glas vs. *glassenes klirren*

Korpusundersøgelsen bekræfter denne tendens, dog med nogle få undtagelser, fx:

- 36) Jeg hørte *den svage hvislen af hans skridt i græsset*, så stod han lige bag mig.
(Korpus 90)

Som Hansen & Heltoft skriver, kan verbalsubstantivet på -en tilknyttes med subjekt eller objekt i af-forbindelser. Disse af-forbindelser kan principielt ikke have noget led mere på højre side, så de kan ikke længere kaldes kentauernominalfraser. Korpusundersøgelsen viser dog nogle sjældne eksempler på disse af-forbindelser med ekstra led på højre side:

af + subjekt

- 40) Så mærkede jeg *den lette prikken af en jomfruelig pegefinger på min skulder*.
(Korpus 90)

↔ at en jomfruelig pegefinger prikker let på min skulder

- 41) men May løste den ved forsigtigt at sætte skub i *den langsomste og mest usikre rullen af en golfbold ned i et lille hul, verden endnu har set*. (Korpus 2000)

↔ at en golfbold ruller ned i et lille hul ...

af + objekt

- 42) Hun ser *samme dirrende krængen af læbernes glatte hud op over spidse tænder*. (Korpus 90)

↔ at han krænger læbernes glatte hud dirrende op over spidse tænder.

- 43) Statsministeren havde fået stillet en række spørgsmål i forbindelse med *regeringens egenrådige inddragen af Danmark i De Forenede Europæiske Socialdemokratiets aktioner mod Østrig* ... (Korpus 2000)

↔ regeringen inddrager Danmark egenrådigt i De Forenede Europæiske Socialdemokrati

Disse forbindelser vil jeg kalde for pseudo-kentauernominalfraser.

(D) Kentauernominalfraser med trykstærkt verbalsubstantiv på -en med et egentligt objektargument

Hansen & Heltoft (1994: 60-61) skriver under 'Kentauerens verbaldeel': "Udfyldningen af kentauerens verbaldeel beror på kerneverbets valens." "Den eneste egentlige valensindskrænkning er at kentauerens ikke kan have et pronominalt objekt eller et objekt med bestemmer, dvs. kentauerens kan ikke have et egentligt objektargument." "Middelbart pronominalt objekt for trykstærkt kerne er muligt når det er reflektivt:" Jeg ved ikke hvordan jeg skal kunne forklare det, men korpusundersøgelsen viser, i hvert fald ifølge én informant, fire eksempler der

afviger fra Hansen & Heltofts forklaringer ved at verbalsubstantivet på *-en* er trykstærkt og har et egentligt objektargument.

- 44) Mødet med hende indebærer for Thomas en overvindelse af den seksualforkvakling, som *hans mors* rent kropslige seksualmoral og *'knyttten ham til sig* har medført. (Korpus 90)

↔ hun *'knytter ham til sig*.

- 45) at han ved at forlade mig på dette tidspunkt på denne måde ved *denne smålige gentagne for'laden mig* har tynget disse mine første skridt, (Korpus 90)

↔ han *for'lader mig ...*

- 46) ... og Isabelles endelige død. d.v.s. *hendes for'laden denne verden som destruktiv kraft ...* (Korpus 90)

↔ hun *for'lader denne verden ...*

- 47) Mit forslag er - med den viden vi har nu, som Platon og Plotin ikke havde - at det er *denne "nåen bunden"*, der fører til "Big Bang". (Korpus 90)

↔ man *'når bunden*.

Endnu to eksempler kan jeg nævne, selv om min informant siger "dårligt sprog" om disse:

- 48) Vi har stået imod. Stridt gennem *livets 'prøven vores oprigtighed*. Men vi holdt sammen og ud. (Korpus 2000) [dårligt sprog]

↔ Livet *'prøver vores oprigtighed*.

- 49) Er der en glidning i gal retning af ansvarsplacering og af *bevidst 'overholden de love og regelsæt, som naturligvis binder os herinde i endnu højere grad, end det binder andre?* (Korpus 90) [dårligt sprog]

↔ Man *'overholder bevidst de love og regelsæt, som naturligvis binder os herinde i endnu højere grad, end det binder andre*.

(E) Kentauernominalfraser med tryksvagt verbalsubstantiv på *-en* med et egentligt objektargument

Jeg kan desuden nævne en anden type kentauernominalfraser der kan være afvigelser fra Hansen & Heltofts forklaringer ved at verbalsubstantivet på *-en* er tryksvagt og har et egentligt objektargument, mens den tilsvarende helsætning har et trykstærkt verbal.

- 50) Ifølge Bent Benzens egen erfaring, så var en opstramning af opsyn og *en konstant 'pusten de kriminelle i nakken* den eneste metode i forsøget på at holde dem på den rigtige side af loven. (Korpus 2000)

↔ Man *'puster konstant de kriminelle i nakken*.

- 51) *Michaël Dittmanns “kyssen” de kvindelige sangere på kinden* har også vakt anstød. (Korpus 90)
↔ Michaël Dittmann 'kysser de kvindelige sangere på kinden.
- 52) Den form for *„kiggen hinanden i kortene* gør man nu ikke. (Korpus 90)
↔ Man 'kigger hinanden i kortene.
- 53) *deres barske, ideologi-bestemte „sigen den dybt beængstede patient “sandheden”* (Korpus 90)
↔ De 'siger den dybt beængstede patient sandheden ...
- 54) efter *seks måneders* gåen tur med hunden og *„malen barnebarnets lejlighed* (Korpus 90)
↔ man 'maler barnebarnets lejlighed i seks måneder.

Som allerførst nævnt har jeg kun gengivet i dette resumé mine kommentarer eller tilføjelser til Hansen & Heltofts artikel, så jeg er bange for at der er nogen der kan få indtrykket af at Hansen & Heltofts artikel er noget mangelfuld. Nej, tværtimod. Hansen & Heltoft analyserer kentauernominalfraser og verbalsubstantivet på -en meget smukt både morfologisk, syntaktisk og betydningsmæssigt; især deres valens- og aktionsartsmæssige analyser er meget overbevisende, så man ved nu at verbalsubstantivet på -en der danner kentauernominalfraser, kun kan dannes af verber der har durativ (herunder iterativ) betydning eller kan have durativ (herunder iterativ) læsning, dvs. det er ikke alle verber det drejer sig om.

Korpusundersøgelsen har vist nogle få afvigelser fra Hansen & Heltofts forklaringer. Jeg er dog ikke i stand til at give nogen forklaring herpå på nuværende tidspunkt. Her er der kun tale om transitive verber, så jeg vil fortsætte med at undersøge i korpuserne, men denne gang vil jeg koncentrere mig om transitive verber.

参 考 文 献

- Christensen, Lisa & Robert Zola Christensen. 2004. "60 svensk-danska syntax-skillnader", Jørgensen, Henrik & Peter Stray Jørgensen (red.), *PÅ GODT DANSK Festschrift til Henrik Galberg Jacobsen i anledning af hans 60 års fødselsdag 4. februar 2004*. 61-71. Århus: Wessel og Huitfeldt.
- Diderichsen, Paul. 1976 (1946). *Elementær dansk Grammatik*. 3. udgave. København: Gyldendal.
- Durst-Andersen, Per & Michael Herslund. 1996a. "The syntax of Danish verbs: Lexical and syntactic transitivity", Engberg-Pedersen, Elisabeth *et al.* (eds.) *Content, Expression and Structure. Studies in Danish functional grammar*. 65-102. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- . 1996b. "Prepositional Objects in Danish", Heltoft, Lars & Hartmut Haberland (eds.) *Proceedings of the Thirteenth Scandinavian Conference of Linguistics*. 93-108. Roskilde: Department of Languages and Culture, Roskilde University.
- Hansen, Aage. 1967. *Moderne dansk I-III*. København: Grafisk Forlag.
- Hansen, Erik. 1978 (1977). *DÆMONERNES PORT. Støttemateriale til undervisningen i nydansk grammatik*. 2. udgave. København: Hans Reizels Forlag.
- Hansen, Erik & Lars Heltoft. 1994. "Kantauernominaler i dansk", I. Baron (ed.). *NORDLEX-Projektet. Sammensatte substantiver i dansk. LAMBDA 20*. 57-67. Copenhagen: Copenhagen Business School. Department of Computational Linguistics.
- . (未刊). *Grammatik over det Danske Sprog*, Kapitel 2 (præliminær version).
- Herslund, Michael. 1998. "Transitivitet og antipassiv i dansk", *Årsberetning 1996-1997*. 57-65. Selskab for Nordisk Filologi, København.
- . 2002. *Danish. Language of the World/Materials 382*. München: LINCOM EUROPA.
- Karker, Allan. 1992. "Sproghistorisk oversigt", *Politikens Nudansk Ordbog*. 15. udgave. 69-87. København: Politikens Forlag.
- . 1996. *Politikens Sproghistorie. Udviklingslinjer før nudansk*. København: Politikens Forlag.
- Mikkelsen, Kr. 1975 (1911). *Dansk Ordføjningslære*. København: Hans Reitzels Forlag.
- Møller, Kristen. 1945. *Nordiske artikelproblemer*. København: J.H. Schultz Forlag.

- Nimb, Sanni. 2004. "Danske adverbier mellem leksikon og syntaks", Widell, Peter og Mette Kunøe (udg.). *10. Møde om Udforskningen af Dansk Sprog*. Århus. [インターネット上公開版.]
- Scheuer, Jann. 1995. *Tryk på Danske Verber*. RASK Supplement Vol. 4. Odense: Odense Universitetsforlag.
- Wiwel, H. G. 1901. *Synspunkter for dansk sproglære*. København: Det Nordiske Forlag.
- フォックス, アンソニー著, 福本義憲訳. 1993. 『ドイツ語の構造. 現代ドイツ語へのアクセス』. 東京: 三省堂.

辞書

- BO = Dansk Sprognævn. 1988. *Baglænsordbog*. Dansk Sprognævns skrifter 15. København: Dansk Sprognævn.
- DES = Vinterberg, Hermann & C. A. Bodelsen. 1990. *Dansk-engelsk ordbog*. 3. udg. ved Viggo Hjørnager Pedersen. (Gyldendals store ordbøger) København: Gyldendal.
- ODS.bd.1 = Det Danske Sprog- og Litteraturselskab. 1918-1919 (1975). *Ordbog over det danske Sprog*. 1. bind. København: Gyldendal.
- RO = Dansk Sprognævn. 1987 (1986). *Retskrivningsordbogen*. 4. oplag med rettelser. København: Gyldendal.
- 川島淳夫ほか編. 1994. 『ドイツ言語学辞典』. 東京: 紀伊國屋書店.
- 国松孝二ほか編. 1990 (1985). 『小学館 独和大辞典 (コンパクト版)』. 東京: 小学館.
- 戸川敬一ほか. 1992. 『マイスター独和辞典』. 東京: 大修館書店.
- 富山芳正編. 1991. 『独和辞典』. 東京: 郁文堂.
- 間瀬英夫・菅原邦城・新谷俊裕・堀井祐介編. 1997-2004. 「現代デンマーク語基本語彙集 (1) - (11)」, 『大阪外国語大学論集』第 17 号 - 第 30 号. 大阪: 大阪外国語大学

例文出典

- Det Danske Sprog- og Litteraturselskab. *Korpus 2000 & Korpus 90*. <http://korpus.dsl.dk/korpus2000/indgang.php>.